2021年　八ッ場ダム現地調査

情報公開により、入手した資料

1）H30.31 八ッ場ダム貯水池周辺地下水等業務報告書　試験湛水時斜面監視編
（R2.3　日本工営）

2）H31吾妻川周辺地下水等観測業務報告書　（R2. 3　日本工営）

3）R2.3八ッ場ダム貯水池周辺地下水位等観測業務報告書（R3. 6　日本工営）

→ 報告書では、地盤変状については異常なしと書かれているが、
測定された数値を見ると、いくつかの箇所で変動が見られる。
（これは、計測誤差、計測器不良なのか？　現地での確認が必要）

→ 報告書の内容を確認のために、現地調査に入りました。

注：スライドに 国交省資料より とあるのは上記３）の資料、→ などの記号は、元図に加筆したもの

現地調査

2021年6月12日

2021年10月2日

計器観測地点の確認

代替地、計器変状地点、
地盤変状箇所の踏査

八ッ場ダム周辺の地盤問題

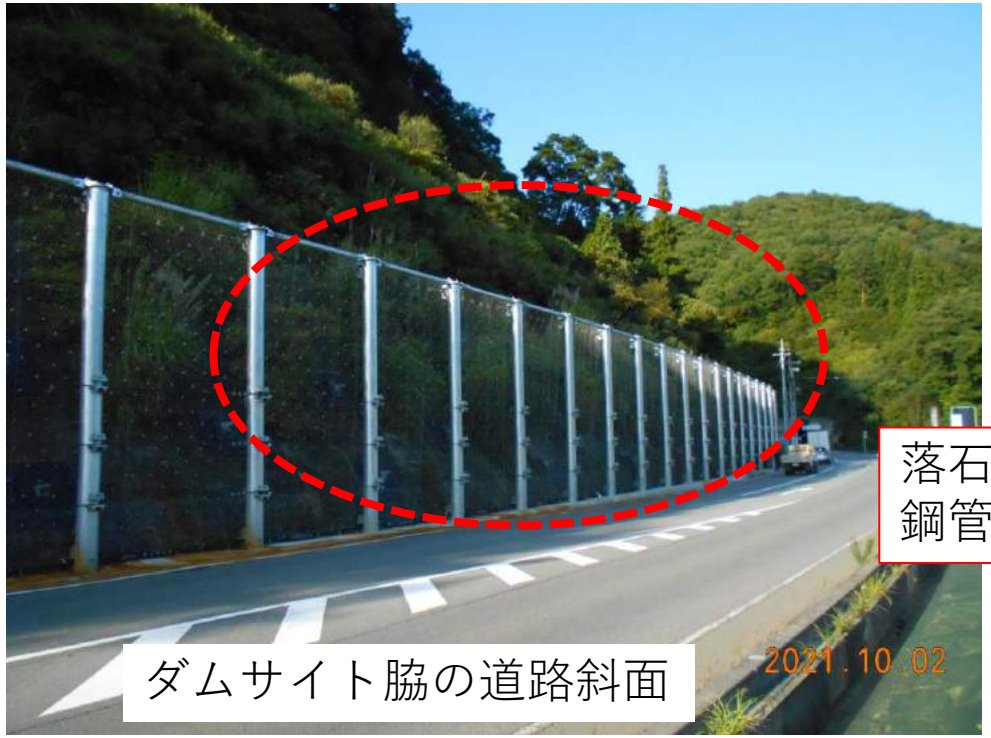
ダム堤体近傍に変質帯が分布

ダム岩盤の亀裂発達（ルジオン値の高い所）
　　漏水対策　薬液注入工の効果

地すべり問題
　　（特に、林層、応桑岩屑堆積物中の地すべり）

高盛土の代替地
　　盛り土地盤の安全性

地山岩盤の風化変質により、岩石が軟化し、斜面崩壊の惧れ



ダムサイト脇の道路斜面

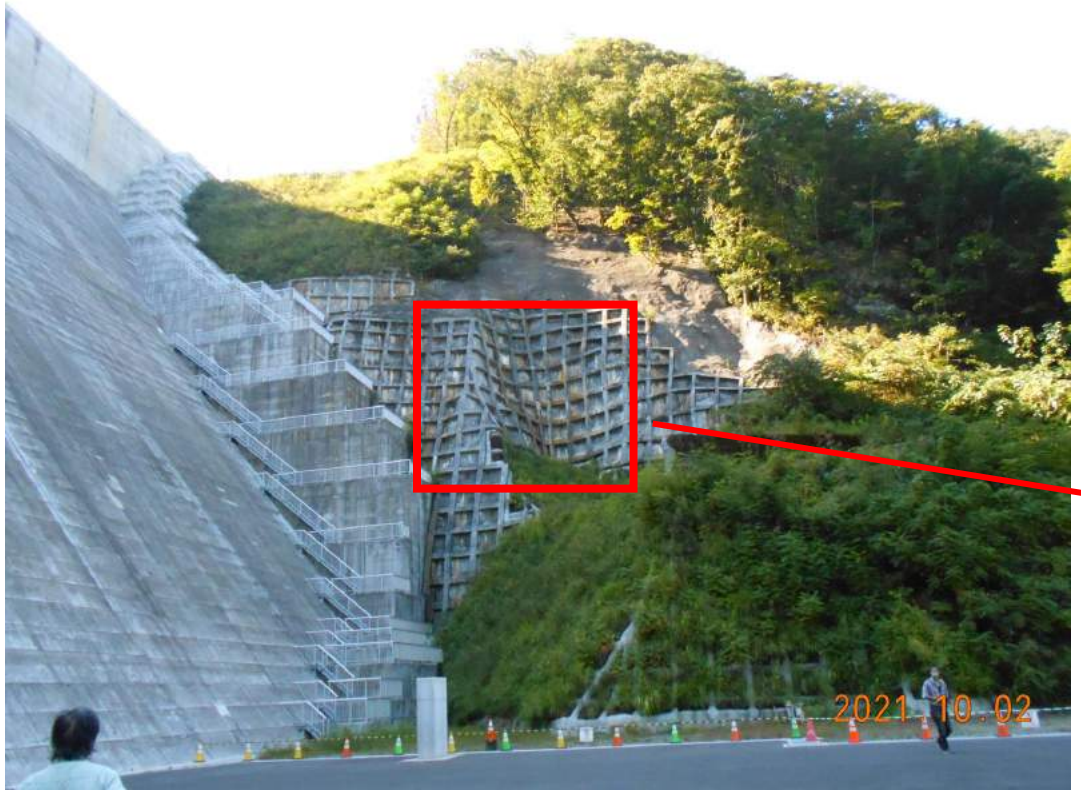
落石防護も兼ねた
鋼管杭によるすべり抑止

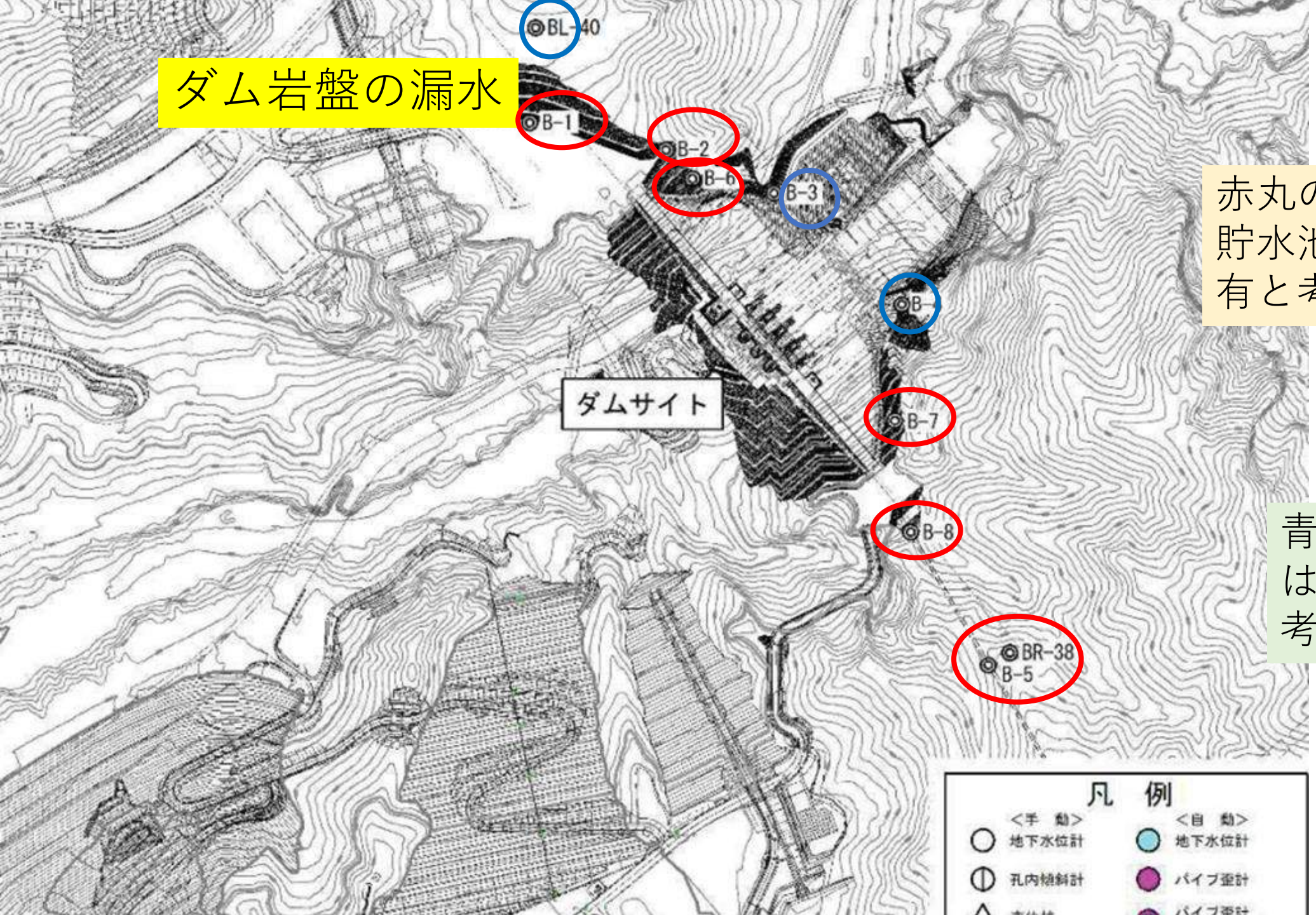
ロックボルトによる
地山岩盤の締め付け

風化変質は
進行

路面の沈下

ダム左岸側
　法枠工に早くも赤さびの拡大





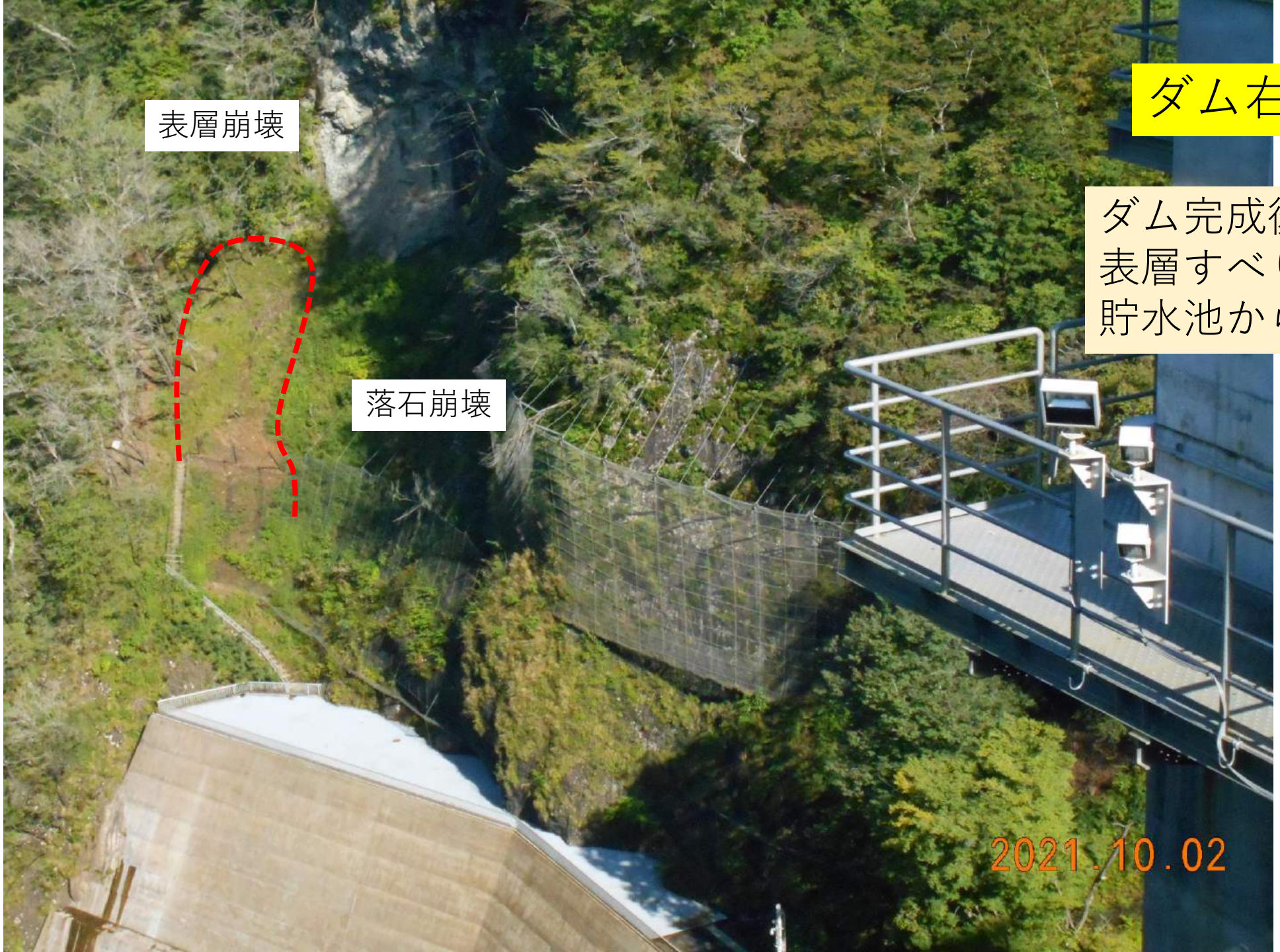
赤丸の観測地点は
貯水池からの漏水
有と考えられる

青丸の観測地点
は、漏水無しと
考えられる

国交省資料より

国交省資料より

計器番号	孔口標高 (m)	観測結果 コメント
B-1	586.16	・貯水位にやや相関する、周期的な地下水位の変動が認められる。
B-2	586.07	・貯水位にやや相関する、周期的な地下水位の変動が認められる。
B-3	506.99	・地下水位は、概ね一定の水位で安定している。
B-4	506.70	・地下水位は、概ね一定の水位で安定している。
B-5	586.50	・貯水位にやや相関する、周期的な地下水位の変動が認められる。
B-6	560.10	・貯水位にやや相関する、周期的な地下水位の変動が認められる。
B-7	560.17	・貯水位にやや相関する、周期的な地下水位の変動が認められる。
B-8	586.50	・貯水位にやや相関する、周期的な地下水位の変動が認められる。
BL-40	630.64	・地下水位は、概ね一定の水位で安定している。
BR-38	649.42	・貯水位にやや相関する、周期的な地下水位の変動が認められる。
B-A	630.59	・地下水位は、概ね一定の水位で安定している。
B-C	605.64	・降雨等による一時的な地下水位の変化が認められる。



ダム右岸側斜面

ダム完成後に起きた
表層すべり、落石崩壊は
貯水池からの漏水が原因？

地すべり観測地点

国交省資料より

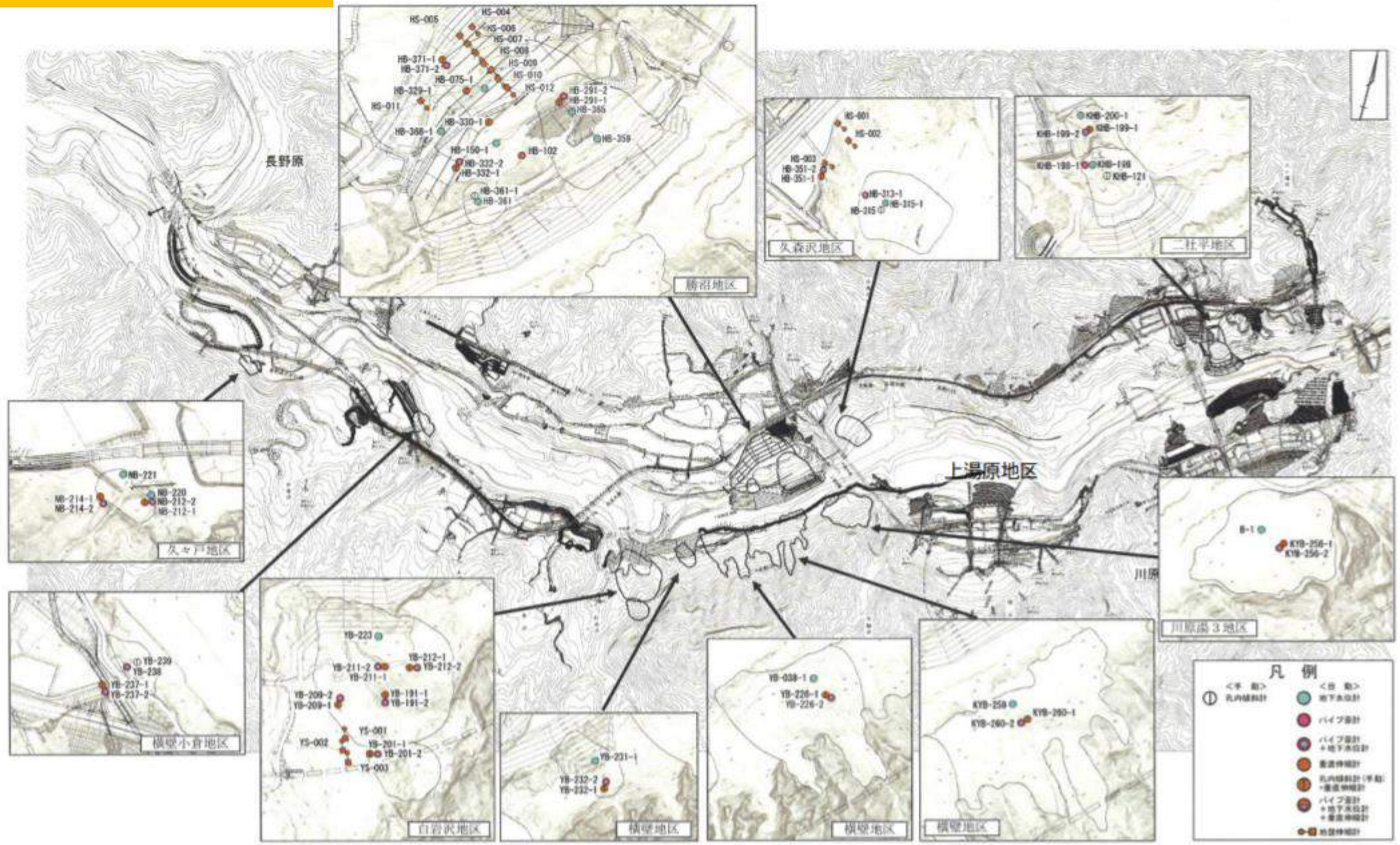


図１　観測機器位置図

国交省資料より

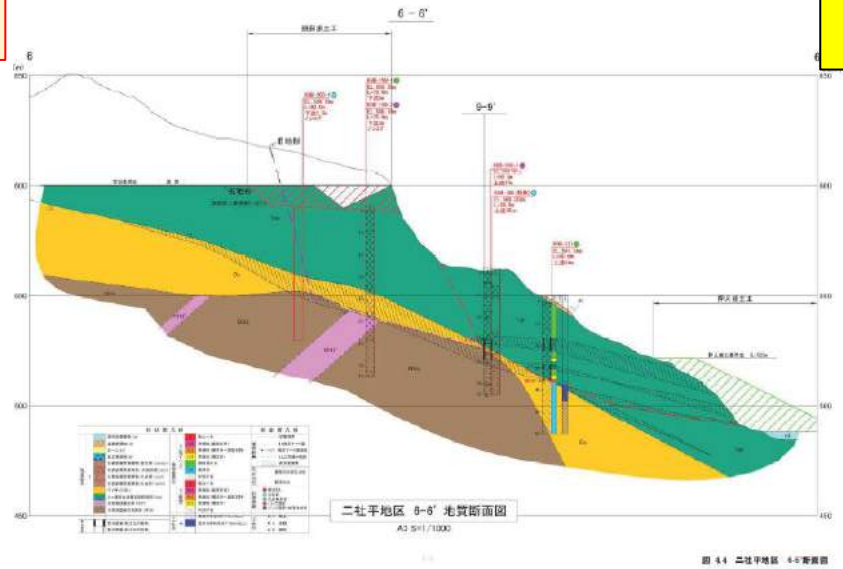
地すべり

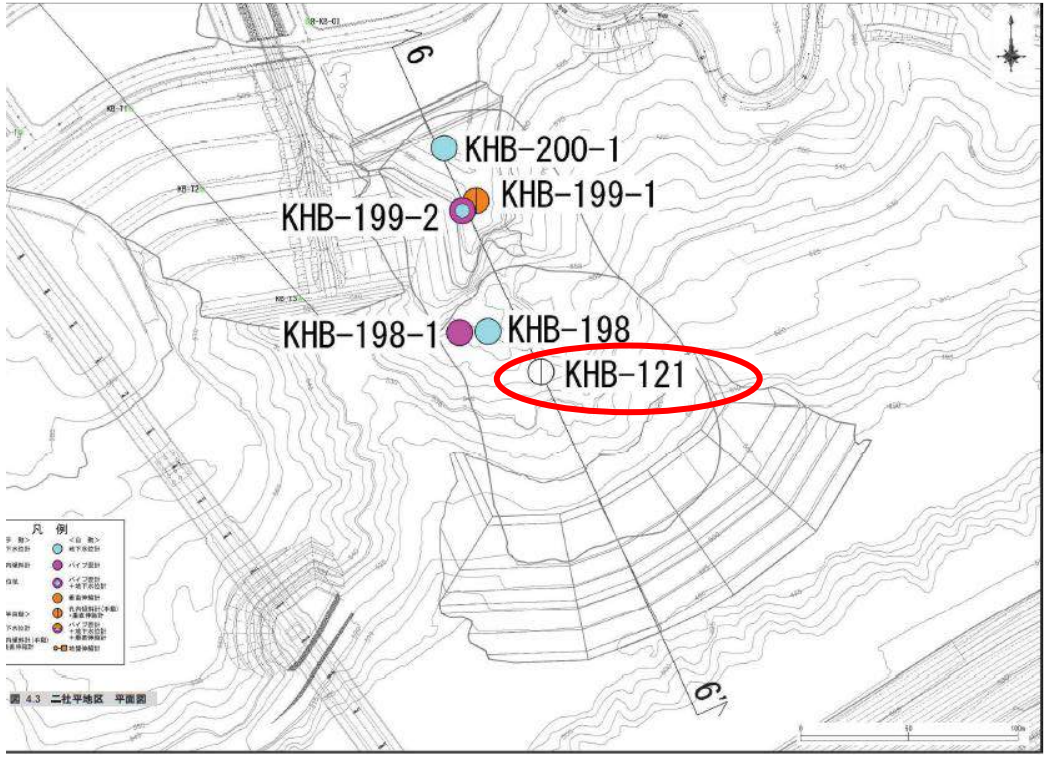
二社平地区

国交省資料より

図 4.1　二社平地区（L8）全景（水没前状況：2019 年 9 月撮影）

図 4.2　二社平地区（L8）全景（水没後状況：2020 年 4 月撮影）





孔内傾斜計

国交省資料より

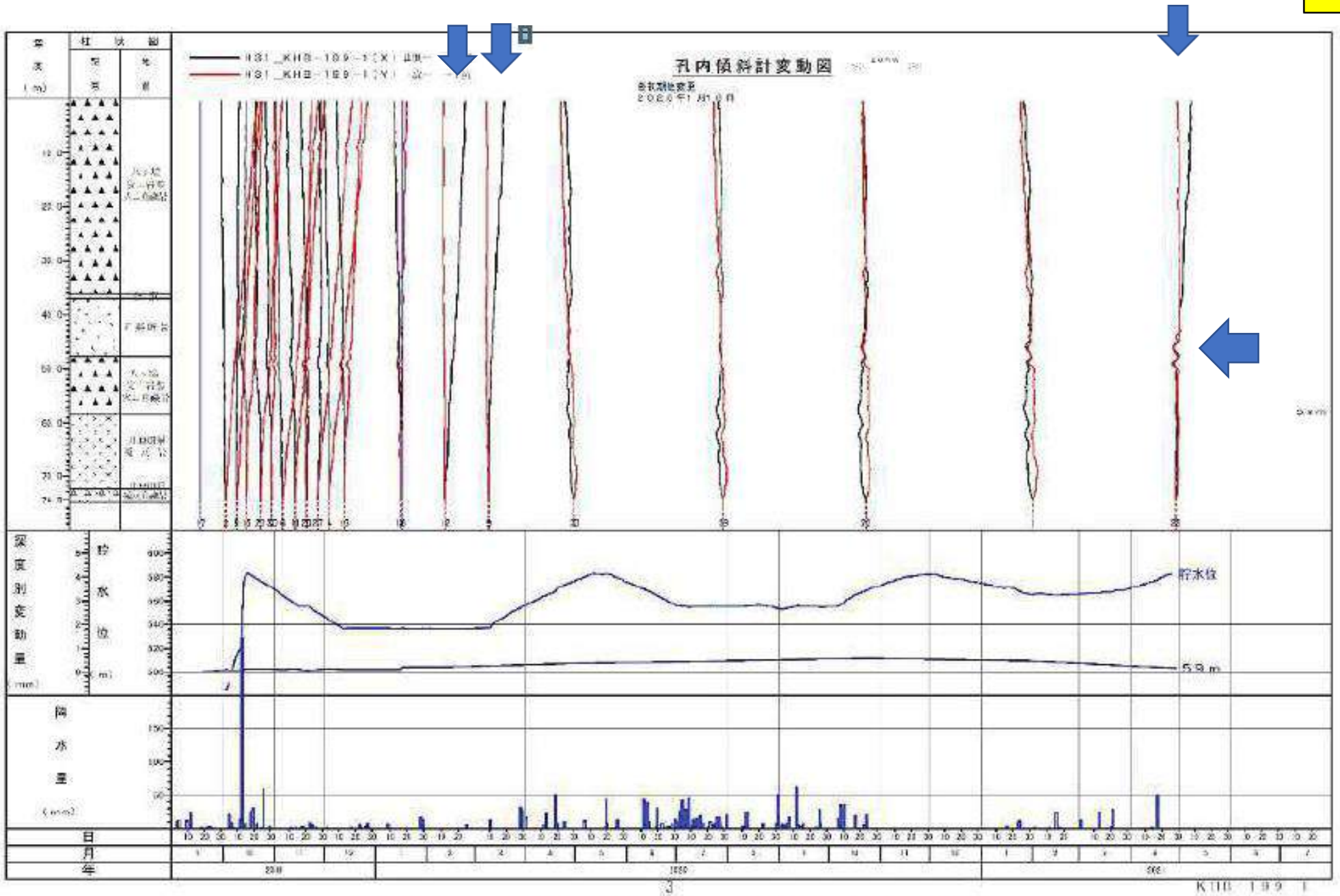


図 4.5　KHB-199-1 孔　孔内傾斜計変動図

(2) 観測結果

二社平地区（L8）の観測結果を以下に示す。また、次の頁以降に各孔の観測グラフを示す。

表 4.3 観測結果一覧（二社平地区（L8））

種別	地区		測線	計器種	計器番号	孔口標高(m)	観測結果 令和2年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	令和3年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	観測結果コメント
地すべり	二社平地区	L8	6-6'	孔内傾斜計	KHB-199-1	588.58	○	－	－	○	－	－	○	－	－	○	－	－	○	－	－	・明瞭な変位は認められない。
					KHB-121	547.38	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・2020年4月以降、観測孔が水没しているため、観測を中止している。 ・同地すべりブロック内に設置されているパイプ歪計により監視を継続している。これらの計器に変位は認められない。
				パイプ歪計	KHB-199-2	588.59	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	・明瞭な変位は認められない。
					KHB-198-1	559.91	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	・明瞭な変位は認められない。
				縦型伸縮計	KHB-199-1	588.58	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	・管理基準値超過や、変位の実績は認められない。
				地下水位計	KHB-200-1	589.98	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	・地下水位は貯水に連動して変化し、貯水位とほぼ同標高で推移している。
					KHB-199-2	588.59	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	・地下水位は貯水に連動して変化し、貯水位とほぼ同標高で推移している。
					KHB-198	560.36	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	・地下水位は貯水に連動して変化し、貯水位とほぼ同標高で推移している。

（凡例）

地下水位計
－ ：観測なし
○ ：異常なし

孔内傾斜計／縦型伸縮計
変動A ：10mm/月以上
変動B ：2mm/月以上、10mm/月未満
変動C ：0.5mm/月以上、2mm/月未満
○ ：0.5mm/月未満（変動なし）
－ ：観測なし　（ ）：変位量は変動A～変動Cに該当するが、前後の変動状況から斜面の変動以外の要因が想定される

パイプ歪計
変動A ：5,000μstrain/月以上
変動B ：1,000μstrain/月以上、5,000μstrain/月未満
変動C ：100μstrain/月以上、1,000μstrain/月未満
○ ：100μstrain/月未満（変動なし）

観測孔は水没、パイプ歪計には変位は見られない

国交省資料より

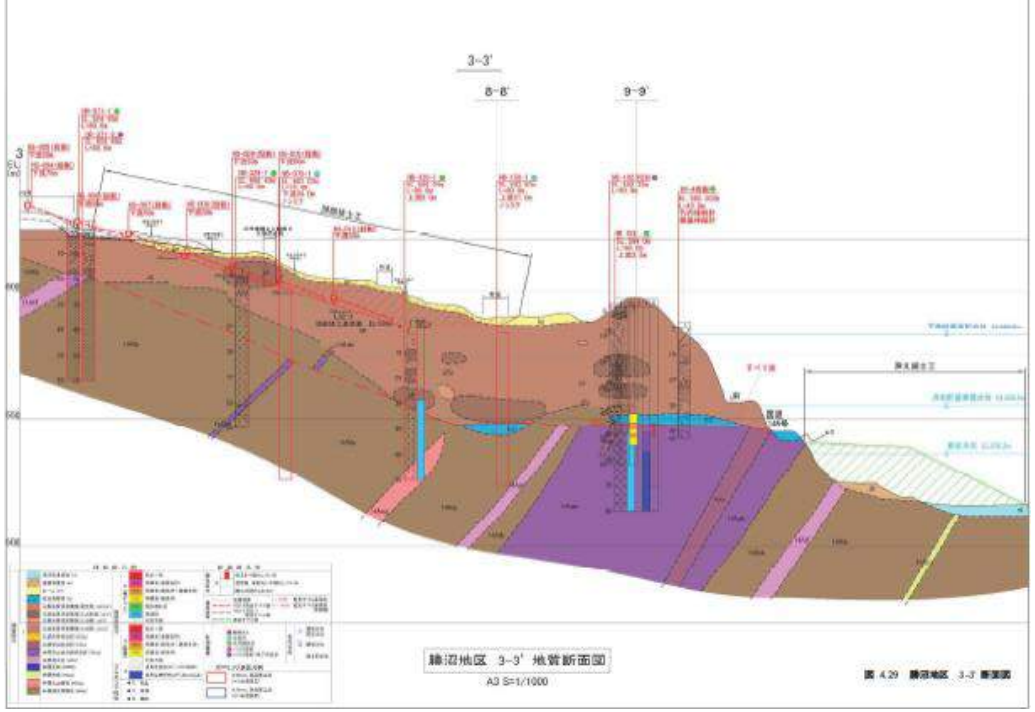
勝沼地区

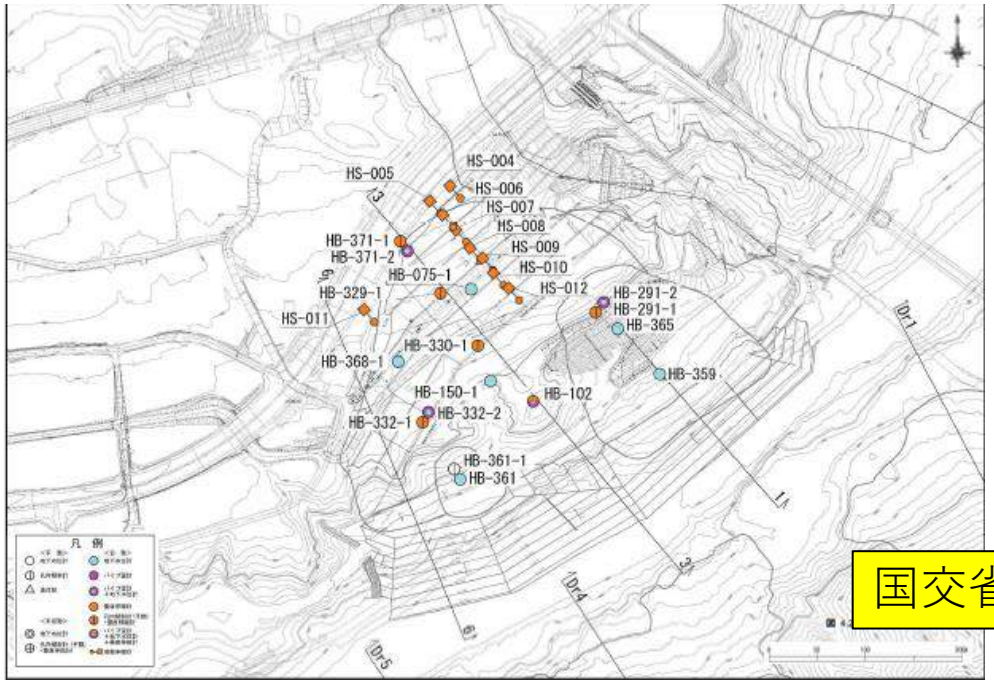
4.3. 勝沼地区（L32）

（1） 概要

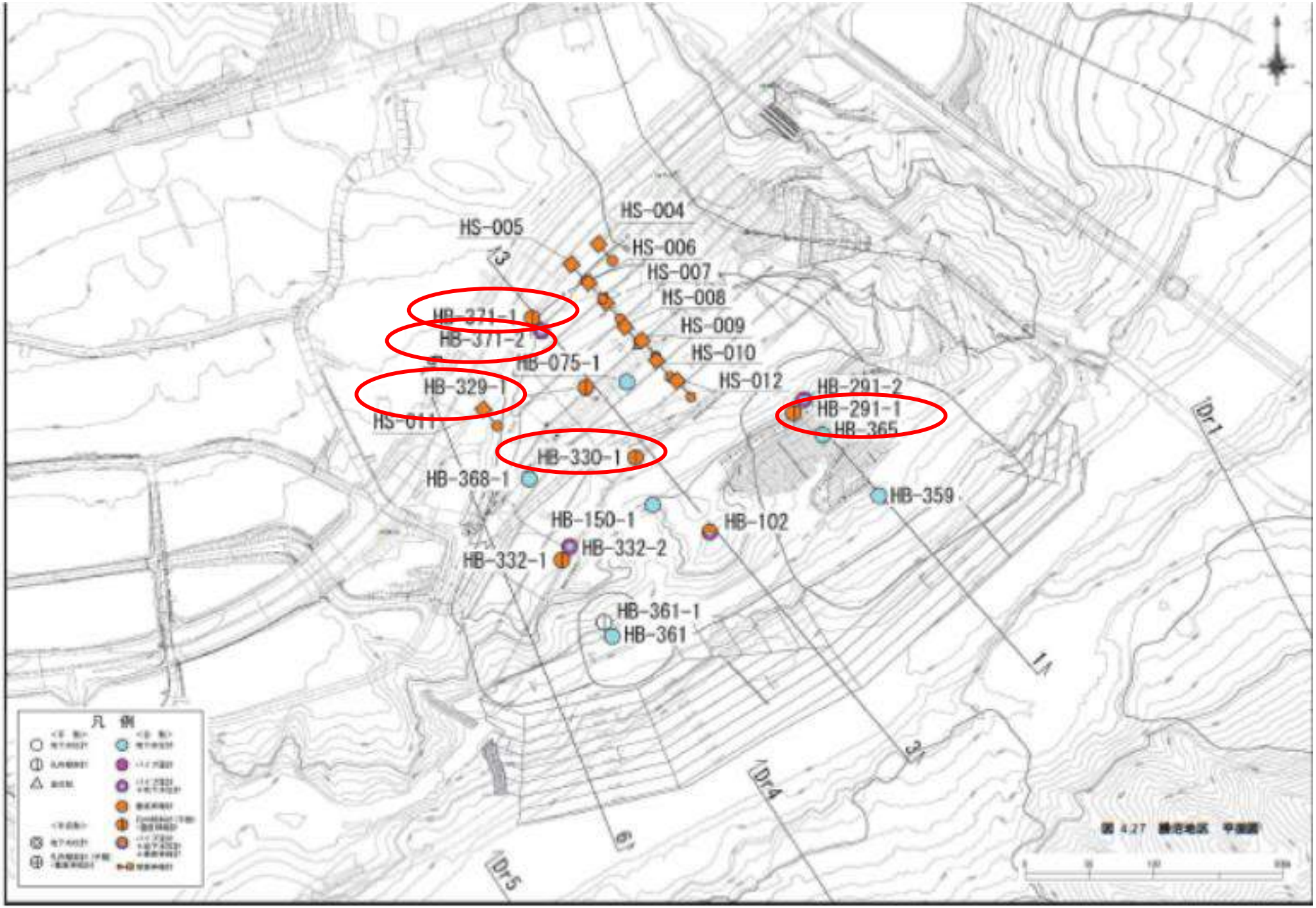
勝沼地区（L32）では、孔内傾斜計、パイプ歪計、縦型伸縮計、地盤伸縮計、地下水位計の観測を実施した。

図 4.25 勝沼地区（L32）全景（湛水前状況：2019 年 9 月撮影）





国交省資料より


HS-004
HS-005
HS-006
HS-007
HS-008
HS-009
HS-010
HS-012
HB-371-1
HB-371-2
HB-075-1
HB-329-1
HS-011
HB-291-2
HB-291-1
HB-365
HB-330-1
HB-368-1
HB-359
HB-150-1
HB-102
HB-332-2
HB-332-1
HB-361-1
HB-361
Dr1
Dr4
Dr5
凡 例

国交省資料より

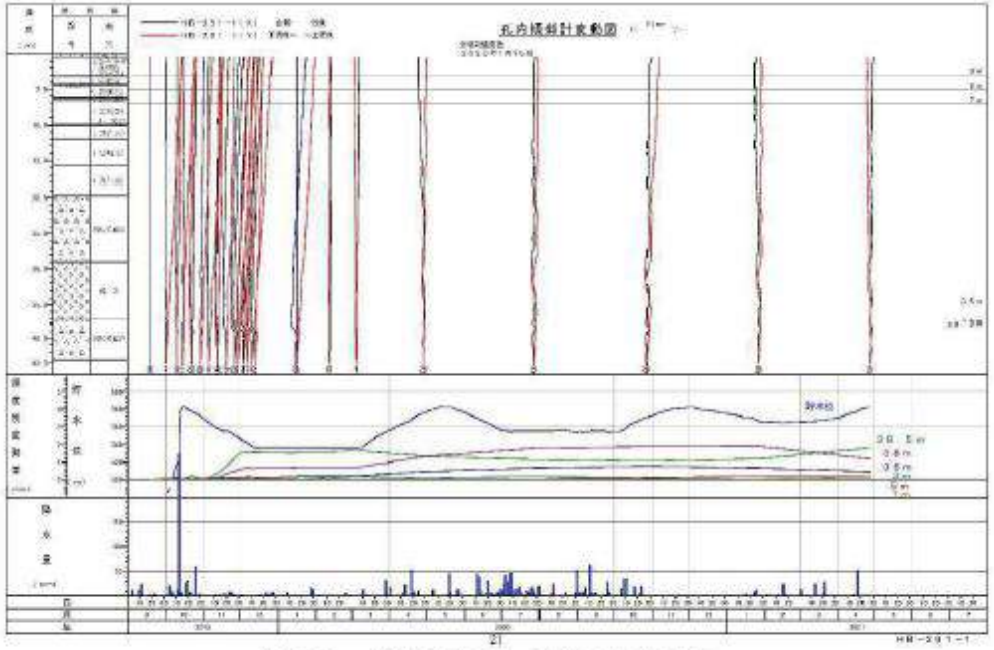


図 4.31　HB-291-1 孔　孔内傾斜計変動図

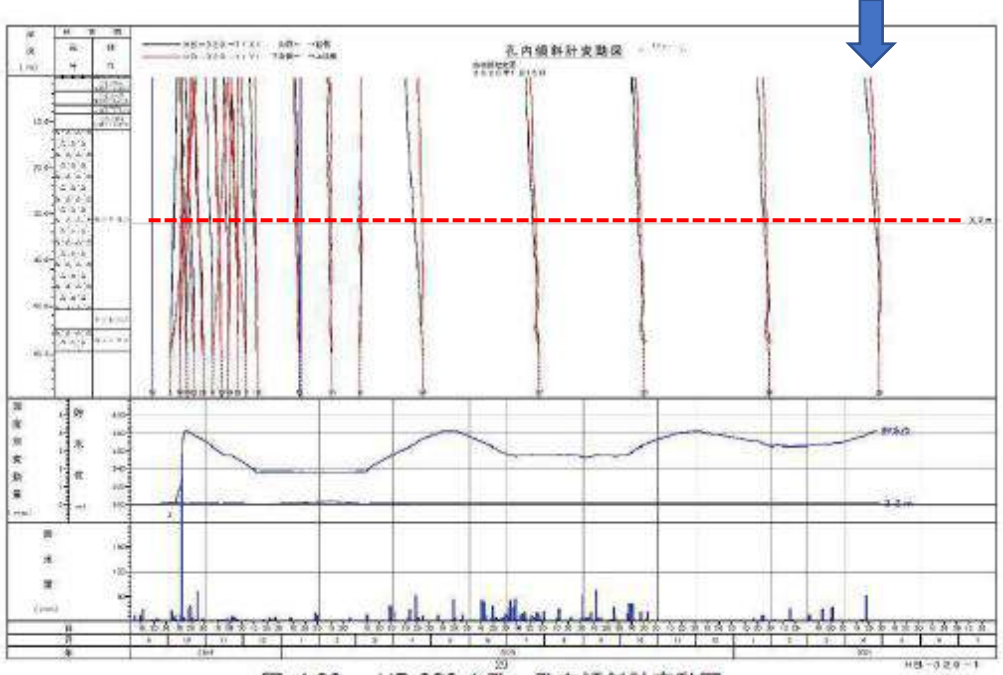


図 4.33　HB-329-1 孔　孔内傾斜計変動図

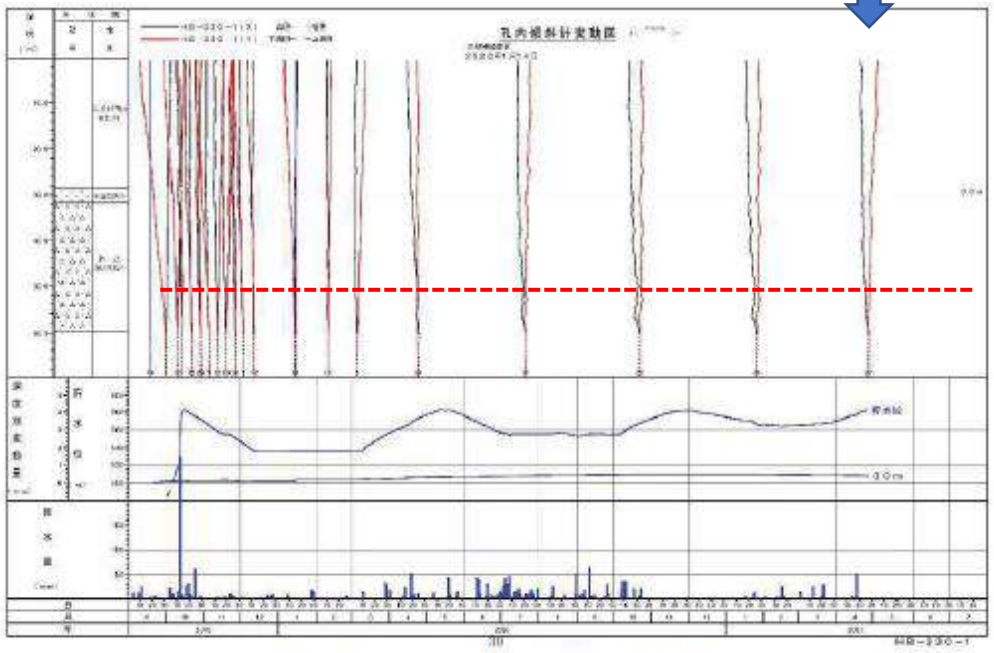


図 4.32　HB-330-1 孔　孔内傾斜計変動図

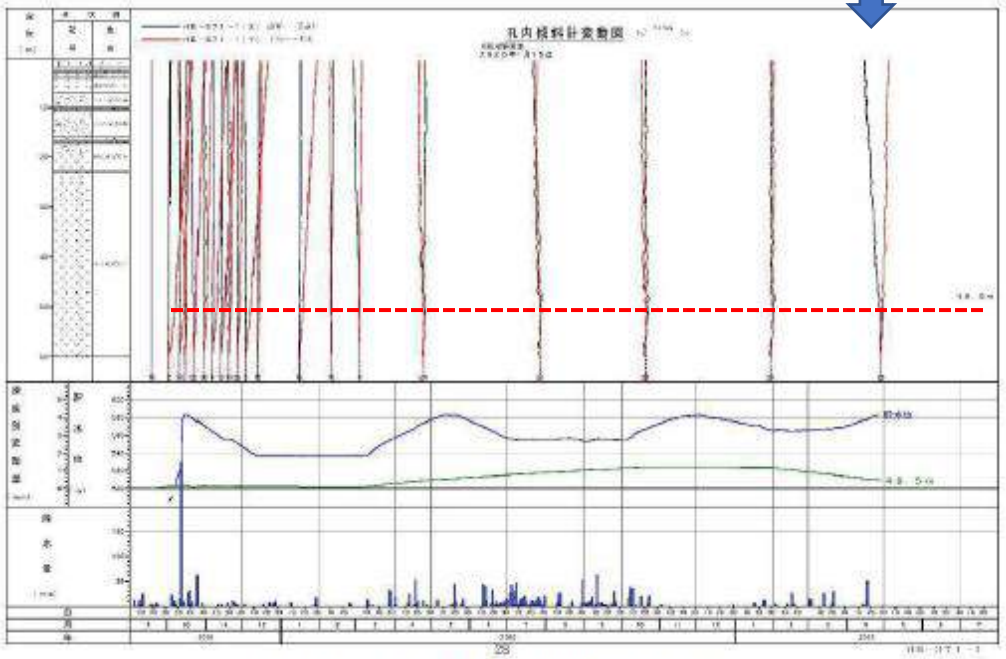


図 4.34　HB-371-1 孔　孔内傾斜計変動図

国交省資料より

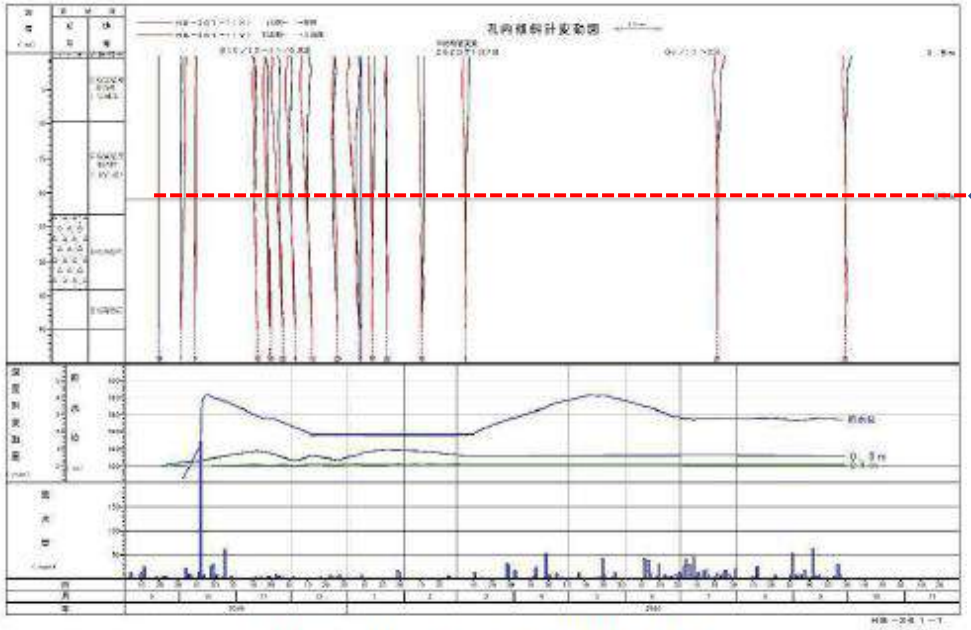


図 4.35　HB-361-1 孔　孔内傾斜計変動図

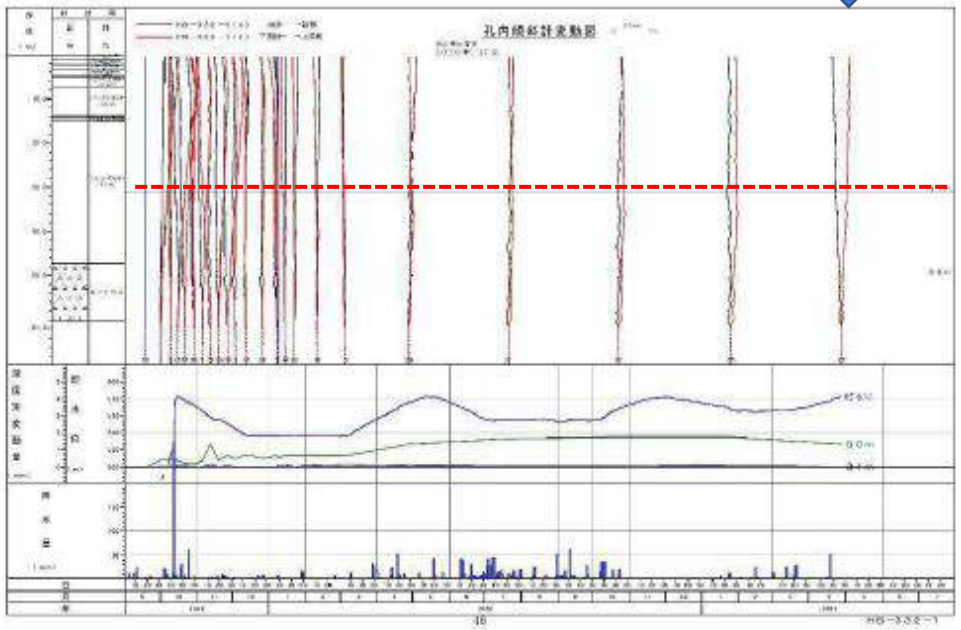


図 4.36　HB-332-1 孔　孔内傾斜計変動図

明瞭な変位は見られない

管理基準値内

地すべり防止技術指針同解説書（平成20年）
　国交省砂防部
　独立行政法人　土木研究所

国交省資料より

(2) 観測結果

勝沼地区（L32）の観測結果を以下に示す。また、以降に各孔の観測グラフを示す。

明瞭な変位は見られない

表 4.9 観測結果一覧（勝沼地区（L32））

種別	地区		測線	計器種	計器番号	孔口標高（m）	観測結果 令和2年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	令和3年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	観測結果コメント
地すべり	勝沼地区	L32	1-1'	孔内傾斜計	HB-291-1	584.19	○	－	－	○	－	－	○	－	－	○	－	－	○	－	－	・明瞭な変位は認められない。
				パイプ歪計	HB-291-2	584.16	○	○	C	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	・2019年10月以降、P37（深度37m）において変位が認められたが、その後は変位の沈静化が確認される。 ・隣接する孔内傾斜計HB-291-1において、パイプ歪計と同深度付近の深度38.5mで山側への変位が確認されたことから、斜面変動以外の局所的な座屈によるものと考えられる。その後は変位の沈静化が確認される。
				縦型伸縮計	HB-291-1	584.19	○	○	○	(C)	(C)	○	(C)	(C)	○	○	C	○	○	○	○	・管理基準値超過や、変位の累積は認められない。
				地盤伸縮計	HS-004	－	○	○	○	(B)	(C)	○	○	C	○	○	○	○	○	○	○	・管理基準値超過や、変位の累積は認められない。
				地下水位計	HB-291-2	584.16	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	・地下水位は貯水に連動して変化し、貯水位とほぼ同標高で推移している。
					HB-365	567.21	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	・地下水位は貯水に連動して変化し、貯水位とほぼ同標高で推移している。
					HB-359	555.75	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	・地下水位は貯水に連動して変化し、貯水位とほぼ同標高で推移している。

〈凡例〉

地下水位計
- －：観測なし
- ○：異常なし

孔内傾斜計／縦型伸縮計
- 変動A：10mm/月以上
- 変動B：2mm/月以上、10mm/月未満
- 変動C：0.5mm/月以上、2mm/月未満
- ○：0.5mm/月未満（変動なし）
- －：観測なし

パイプ歪計
- 変動A：5,000μstrain/月以上
- 変動B：1,000μstrain/月以上、5,000μstrain/月未満
- 変動C：100μstrain/月以上、1,000μstrain/月未満
- ○：100μstrain/月未満（変動なし）

（ ）：変位量は変動A～変動Cに該当するが、前後の変動状況から斜面の変動以外の現象が想定される

明瞭な変位は見られない

表 4.10 観測結果一覧（勝沼地区（L32））

種別	地区		測線	計器種	計器番号	孔口標高（m）	観測結果 令和2年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	令和3年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	観測結果コメント
地すべり	勝沼地区	L32	3-3'	孔内傾斜計	HB-371-1	624.85	○	－	－	○	－	－	○	－	－	○	－	－	○	－	－	・明瞭な変位は認められない。
					HB-329-1	606.43	○	－	－	○	－	－	○	－	－	○	－	－	○	－	－	・明瞭な変位は認められない。
					HB-330-1	586.04	○	－	－	○	－	－	○	－	－	○	－	－	○	－	－	・明瞭な変位は認められない。
				パイプ歪計	HB-371-2	624.68	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	・明瞭な変位は認められない。
					HB-102	592.33	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	・2019年10月のP2～P3（深度2m～3m）における変位は、試験湛水の台風19号の豪雨時に発生した。その後は変位の沈静化が確認される。 ・想定すべり面深度における変位は認められず、浅部の局所的な現象であることを確認しており、想定された地すべり等の変動を示すような変位は認められない。
				縦型伸縮計	HB-371-1	624.85	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	・管理基準値超過や、変位の累積は認められない。
					HB-329-1	606.43	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	・管理基準値超過や、変位の累積は認められない。
					HB-330-1	586.04	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	・管理基準値超過や、変位の累積は認められない。
					HB-102	592.33	○	○	○	C	C	(C)	(C)	(B)	○	C	C	○	(C)	○	○	・表層部の変位により圧縮変位が認められる。また、植生等の接触による突発的な引張変位（2020.10/10）が認められる。その後は変位の沈静化が確認される。 ・同孔に併設されたパイプ歪計の観測結果から、想定すべり面深度における変位は認められない。 ・試験湛水が完了した以降、管理基準値超過や、変位の累積は観測されておらず、地すべり等の変動は確認されない。
				地盤伸縮計	HS-005	－	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	・管理基準値超過や、変位の累積は認められない。
					HS-006	－	○	C	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	・管理基準値超過や、変位の累積は認められない。
					HS-007	－	○	C	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	・管理基準値超過や、変位の累積は認められない。
					HS-008	－	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	・管理基準値超過や、変位の累積は認められない。
					HS-009	－	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	・管理基準値超過や、変位の累積は認められない。
					HS-010	－	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	・管理基準値超過や、変位の累積は認められない。
					HS-012	－	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	・管理基準値超過や、変位の累積は認められない。
				地下水位計	HB-371-2	624.68	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	・観測孔が高い位置にあるため、貯水に連動した周期的な地下水位の変動傾向は小さい。
					HB-075-1	601.07	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	・地下水位は貯水に連動して変化し、貯水位とほぼ同標高で推移している。
					HB-150-1	583.87	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	・地下水位は貯水に連動して変化し、貯水位とほぼ同標高で推移している。
					HB-102	592.33	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	・地下水位は貯水に連動して変化し、貯水位とほぼ同標高で推移している。
			5-5'	孔内傾斜計	HB-332-1	586.07	○	－	－	○	－	－	○	－	－	○	－	－	○	－	－	・明瞭な変位は認められない。
					HB-361-1	564.01	－	－	－	○	－	－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	・明瞭な変位は認められない。
				パイプ歪計	HB-332-2	586.25	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	・明瞭な変位は認められない。
				縦型伸縮計	HB-332-1	586.07	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	・管理基準値超過や、変位の累積は認められない。
				地盤伸縮計	HS-011	－	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	C	○	○	・管理基準値超過や、変位の累積は認められない。
				地下水位計	HB-368-1	602.32	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	・地下水位は貯水に連動して変化し、貯水位とほぼ同標高で推移している。
					HB-332-2	586.25	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	・地下水位は貯水に連動して変化し、貯水位とほぼ同標高で推移している。
					HB-361	562.39	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	・地下水位は貯水に連動して変化し、貯水位とほぼ同標高で推移している。

国交省資料より

表 2.11　孔内傾斜計変動種別一覧

変動種別	日変位量 (mm)	累積変位量 (mm/月)	一定方向への累積傾向	総合判定	
				変動判定	活動性ほか
変動　A	1 以上	10 以上	顕　著	確　定	活発に運動中、表層・深層すべり
〃　B	0.1～1	2～10	やや顕著	準確定	緩慢に運動中、粘質土・崩積土すべり
〃　C	0.02～0.1	0.5～2	ややあり	潜　在	継続観測が必要
〃　D	0.1 以上	な　し (断続変動)	な　し	異　常	局部的な地盤変動・その他

国土交通省砂防部、独立行政法人土木研究所「地すべり防止技術指針及び同解説　平成 20 年 4 月」P29 より引用（地盤伸縮計の変動種別を利用）

国交省資料より

表 2.13　縦型伸縮計・地盤伸縮計変動種別一覧

変動種別	日変位量 (mm)	累積変位量 (mm/月)	一定方向への累積傾向	総合判定	
				変動判定	活動性ほか
変動　A	1 以上	10 以上	顕　著	確　定	活発に運動中、表層・深層すべり
〃　B	0.1～1	2～10	やや顕著	準 確 定	緩慢に運動中、粘質土・崩積土すべり
〃　C	0.02～0.1	0.5～2	ややあり	潜　在	継続観測が必要
〃　D	0.1 以上	な　し (断続変動)	な　し	異　常	局部的な地盤変動・その他

国土交通省砂防部、独立行政法人土木研究所「地すべり防止技術指針及び同解説　平成 20 年 4 月」P29 より引用

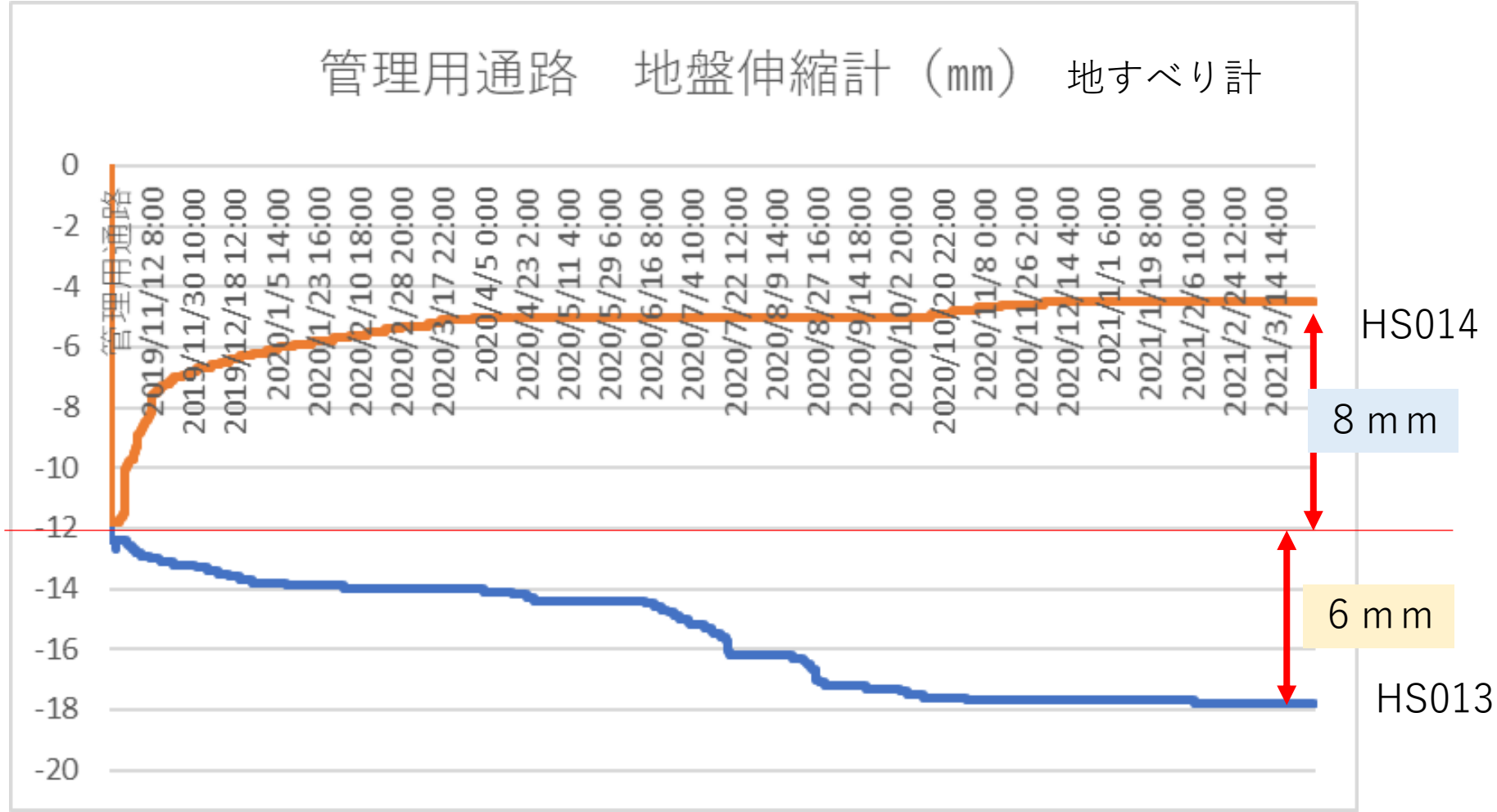
国交省資料より

管理用道路 勝沼地区の西よりの地点

計測器と警報灯、地面を覆うビニールシートが設置されている。
ここで地すべりが生じた？

地すべり計が新たに設置されていた。
赤いのは警報灯：（地すべりが一定規模変動すると、警報ランプが点滅する）
警報灯が設置されているのはこの個所だけ

管理用道路（勝沼地区の西端）



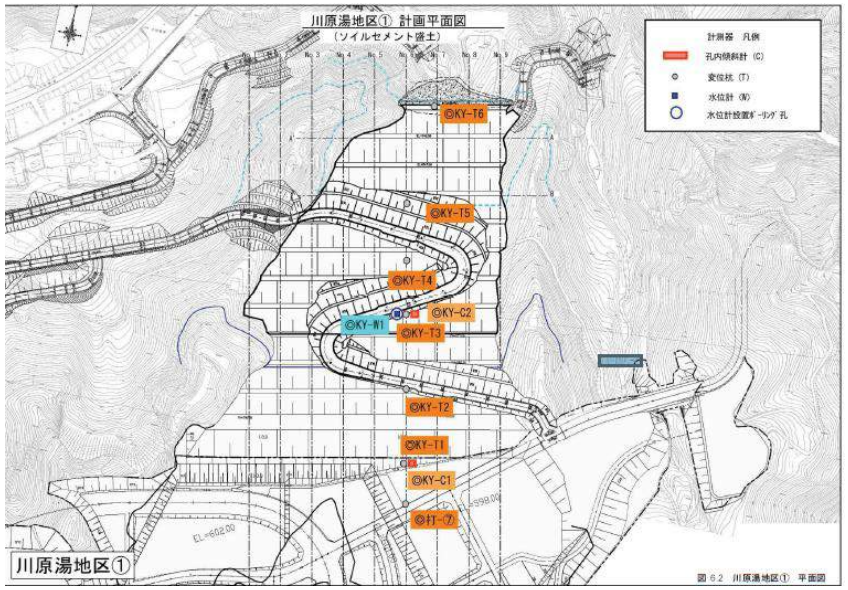
2019年11月12日から2021年３月14日

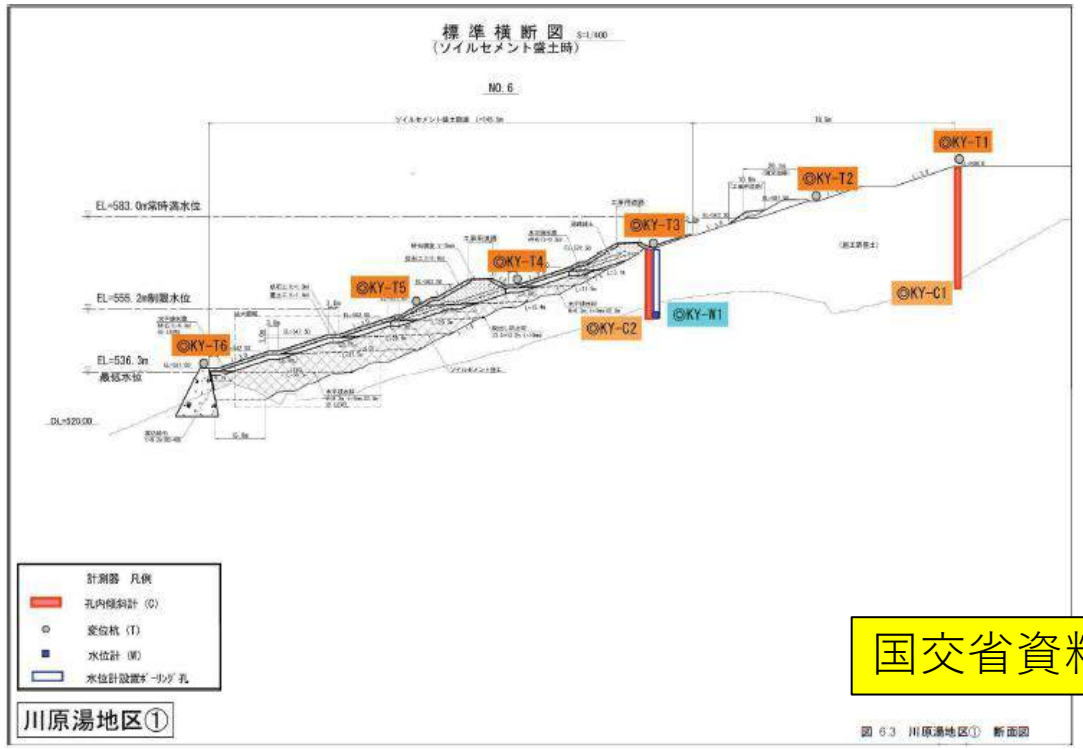
国交省資料より

代替地

川原湯１

図 6.1　川原湯地区①全景





国交省資料より

国交省資料より

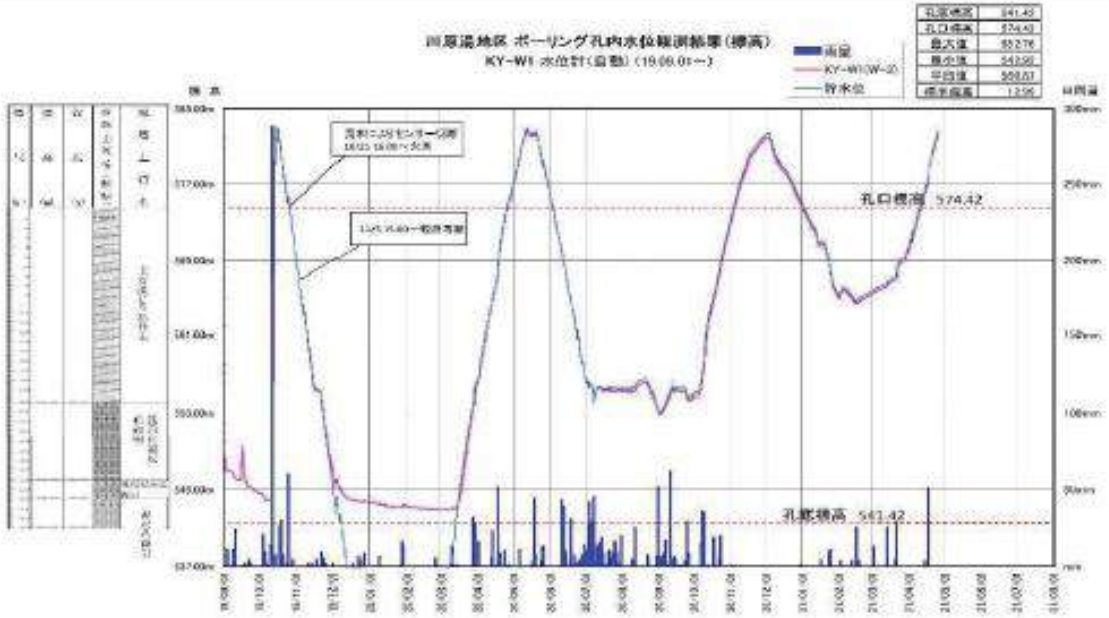
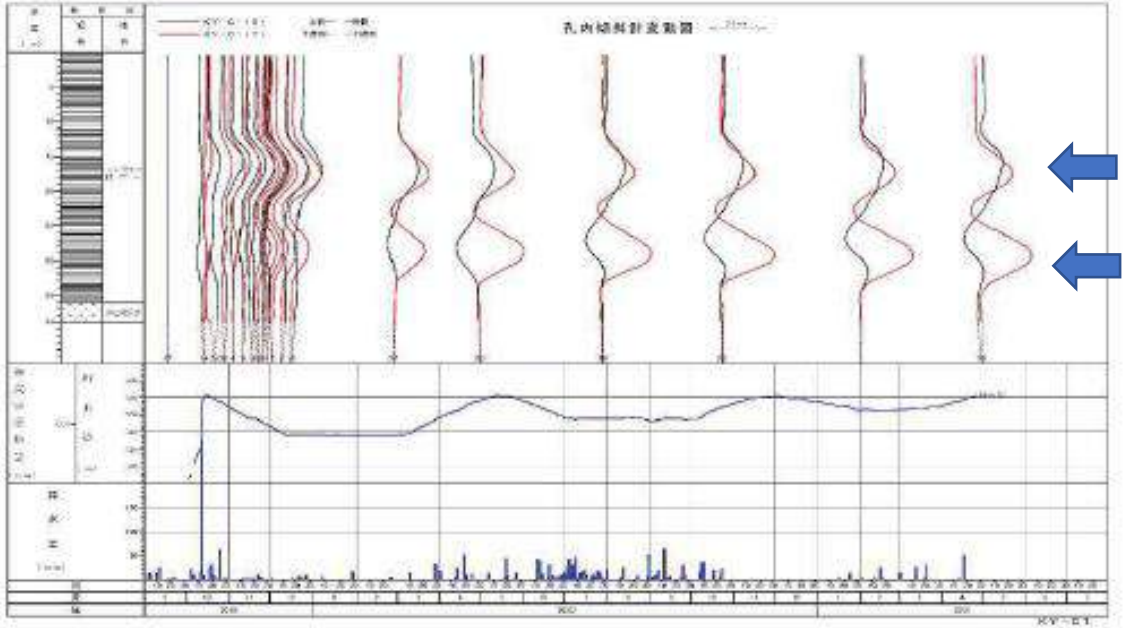


図 6.14　地下水位計 KY-W1 変動図



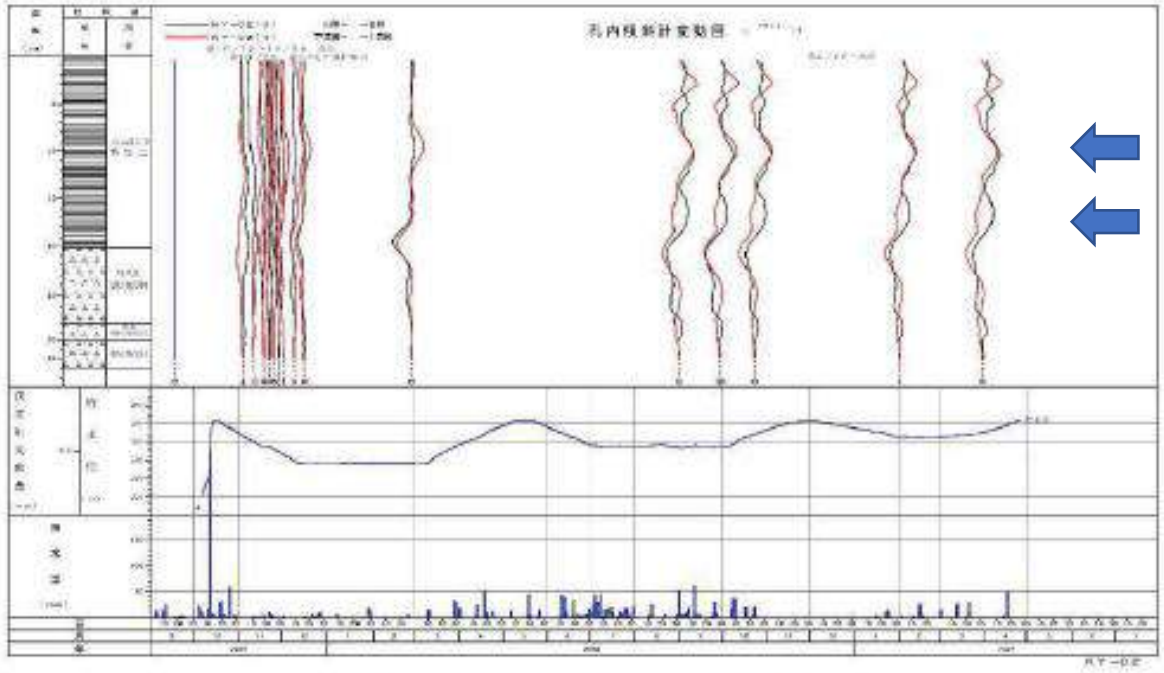


図 6.16　孔内傾斜計 KY-C2 変動図

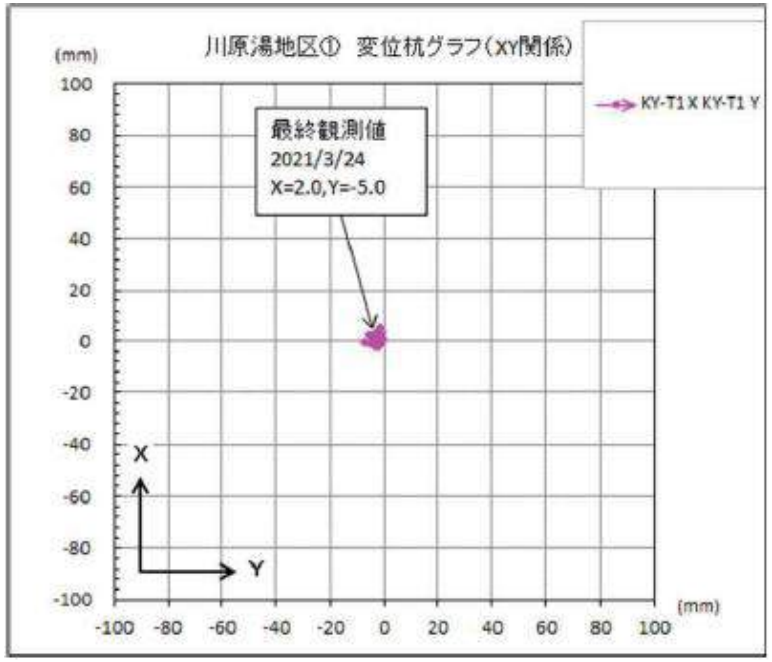
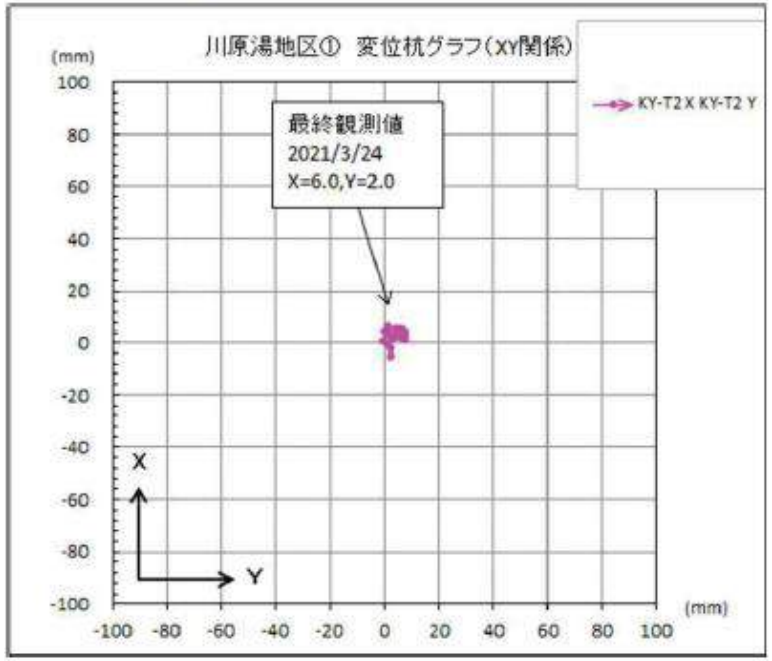


図 6.9 変位杭 KY-T1 水平変位ベクトル図



国交省資料より

国交省資料より

種別	地区	測線	計器種	計器番号	孔口標高 (m)	観測結果 コメント
代替地	川原湯地区①	—	地下水位計	KY-W1	574.42	・地下水位は貯水に連動して変化し、貯水位とほぼ同標高で推移している。
			孔内傾斜計	KY-C1	599.62	・沈下と考えられる変位が認められる。 ・円弧すべりの発生を示唆するせん断変形は認められない。 ・同地区で観測している変位杭において、保全対象に最も近い盛土法肩部測点での計測結果は管理基準値以下であり、盛土の不安定化を示す変位は認められない。
				KY-C2	574.55	・明瞭な変位は認められない。
			変位杭	KY-T1	598.00	・管理基準値超過や、変位の累積は認められない。
				KY-T2	587.50	・管理基準値超過や、変位の累積は認められない。
				KY-T3	572.90	・測量誤差(±15mm)を超える変位が観測されたが、変位量の急激な変化や、有意な変位の累積性も認められない。 ・同地区で観測している変位杭において、保全対象に最も近い盛土法肩部測点での計測結果は管理基準値以下であり、盛土の不安定化を示す変位は認められない。
				KY-T4	561.50	・測量誤差(±15mm)を超える変位が観測されたが、変位量の急激な変化や、有意な変位の累積性も認められない。 ・同地区で観測している変位杭において、保全対象に最も近い盛土法肩部測点での計測結果は管理基準値以下であり、盛土の不安定化を示す変位は認められない。
				KY-T5	555.20	・一時的に管理基準値を超える変位が観測されたが、変位量の急激な変化や、有意な変位の累積性も認められない。 ・同地区で観測している変位杭において、保全対象に最も近い盛土法肩部測点での計測結果は管理基準値以下であり、盛土の不安定化を示す変位は認められない。
				KY-T6	537.50	・2020年 ・同地区 測点での 認められ

地下水位計	－	：観測なし	孔内傾斜計	変動A ：10mm/
	○	：異常なし		変動B ：2mm/
				変動C ：0.5mm

沈下と考えられる変位が認められる。
円弧すべりの発生を示唆するせん断変形は認められない
同地区で観測している変位杭において、保全対象に最も近い盛土法肩部測点での計測結果は管理基準値以下であり、盛土の不安定を示す変位は認められない。

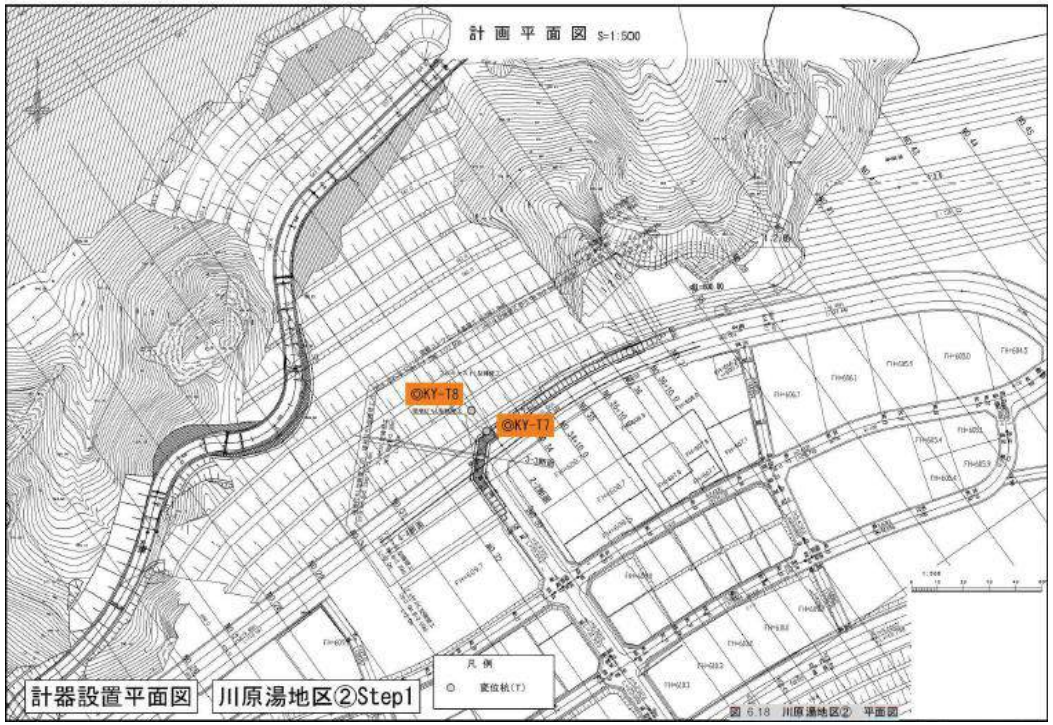
川原湯地区２

6.2. 川原湯地区②

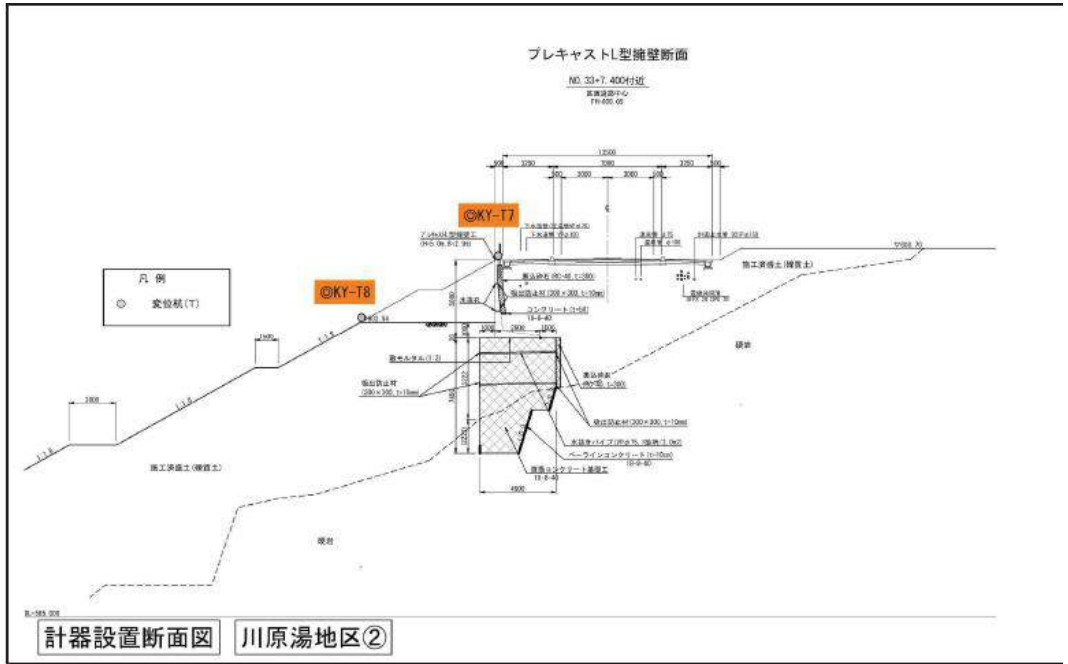
(1) 地区概要

川原湯地区②における保全対象は、盛土天端の宅地である。川原湯地区②では盛土天端の法肩にＬ型擁壁を設ける対策工を実施している。Ｌ型擁壁は、平常時最高貯水位よりも高位標高に位置し、置換コンクリート基礎工を介した岩盤上へ設置されているため、下方の河川管理の盛土とは縁が切れた状態であり、宅地部は湛水の影響を受けないこととなる。このため、河川管理の盛土部が湛水の影響を受けることにより代替地盛土が不安定化する兆候を確認することを目的として観測を実施した。

図 6.17　川原湯地区②全景



計器設置平面図　川原湯地区②Step1



計器設置断面図　川原湯地区②

川原湯地区２

(2) 観測結果

川原湯地区②の観測結果を以下に示す。

表 6.6 観測結果一覧（川原湯地区②）

種別	地区	測線	計器種	計器番号	孔口標高 (m)	観測結果 令和2年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	令和3年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	観測結果コメント
代替地	川原湯地区②	—	変位杭	KY-T7	608.00	○	－	－	○	－	－	○	－	－	○	－	－	○	－	－	・管理基準値超過や、変位の累積は認められない。
				KY-T8	603.94	○	－	－	○	－	－	○	－	－	○	－	－	○	－	－	・管理基準値超過や、変位の累積は認められない。

〈凡例〉

地下水位計	－	：観測なし	孔内傾斜計	変動A	：10mm/月以上	変位杭	○ ：管理基準値の超過
	○	：異常なし		変動B	：2mm/月以上、10mm/月未満		◎ ：測量誤差の超過
				変動C	：0.5mm/月以上、2mm/月未満		○ ：変動なし
				○	：0.5mm/月未満（変動なし）		－ ：観測なし

（　）：変位量においては変動A～変動Cに該当するが、前後の変動状況から斜面の変動以外の理由によると判断される

明瞭な変位は見られない

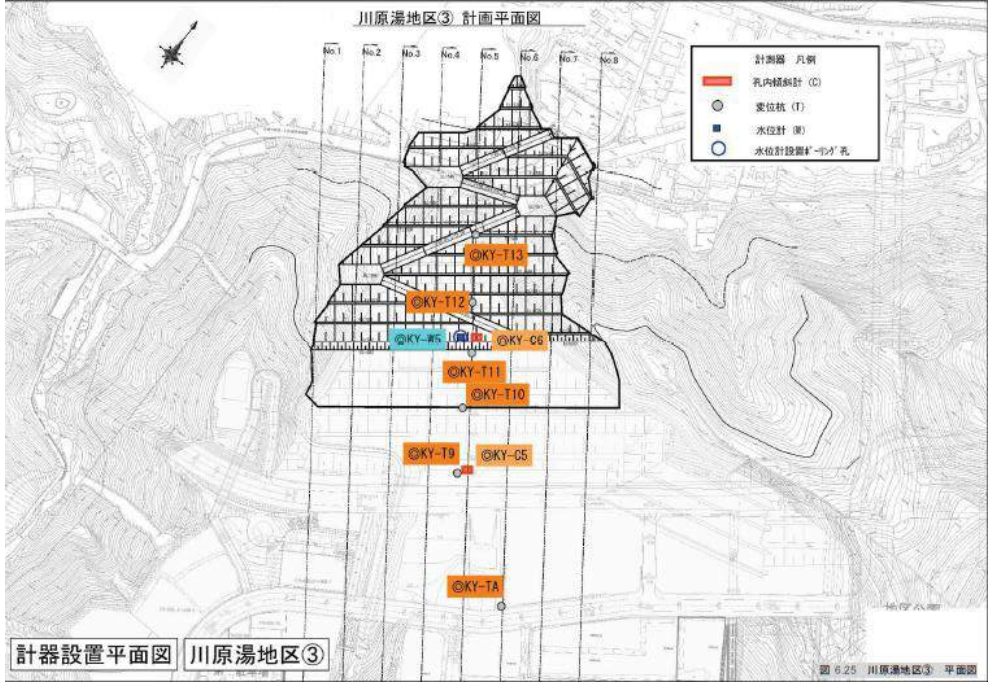
川原湯地区３

6.3. 川原湯地区③

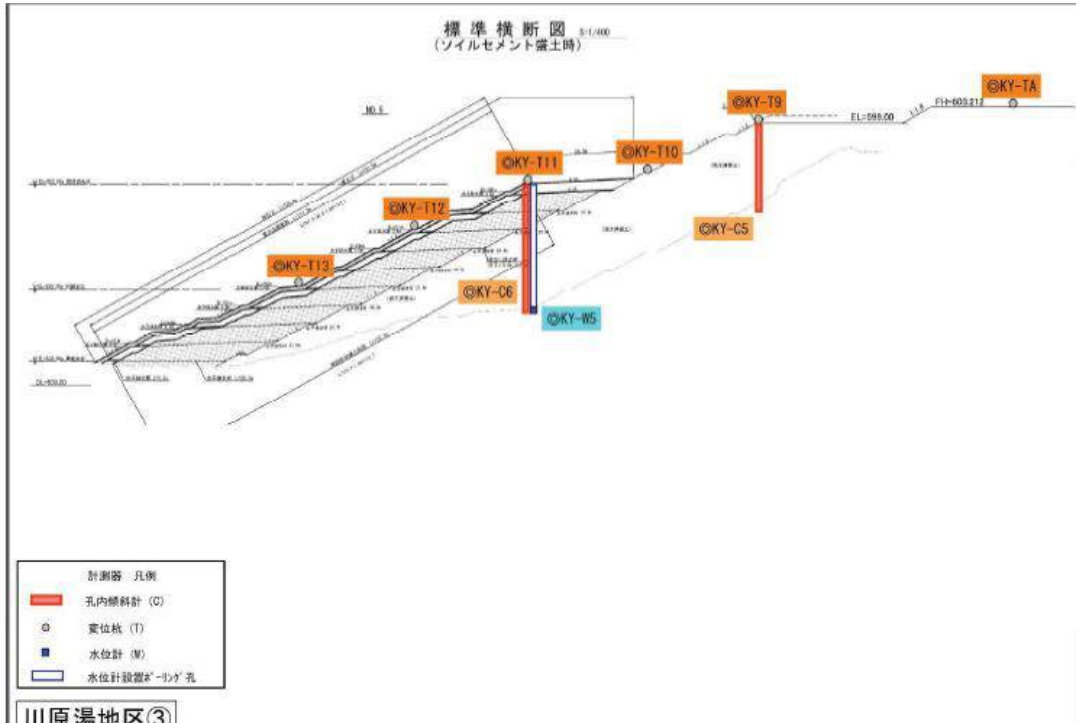
(1) 地区概要

川原湯地区③における保全対象は、盛土天端の宅地である。川原湯地区①では地震時の盛土の安定性を確保するためにソイルセメントによる対策が実施されている。盛土法高は 63m であり、供用時は法尻から 27.8m、満水時は法尻から 47.1m まで水位が上昇する。湛水の影響を受ける構造物は、施工済み盛土部・対策工ソイルセメント部が対象となる。湛水時の盛土部の不安定化の兆候を監視するため観測を実施した。

図 6.24　川原湯地区③全景



計器設置平面図　川原湯地区③



川原湯地区③

代替地

川原湯３

路面に新しい亀裂が見られた。
ただし、地すべりと関係しているかどうかは
現時点では不明

川原湯地区３

国交省資料より

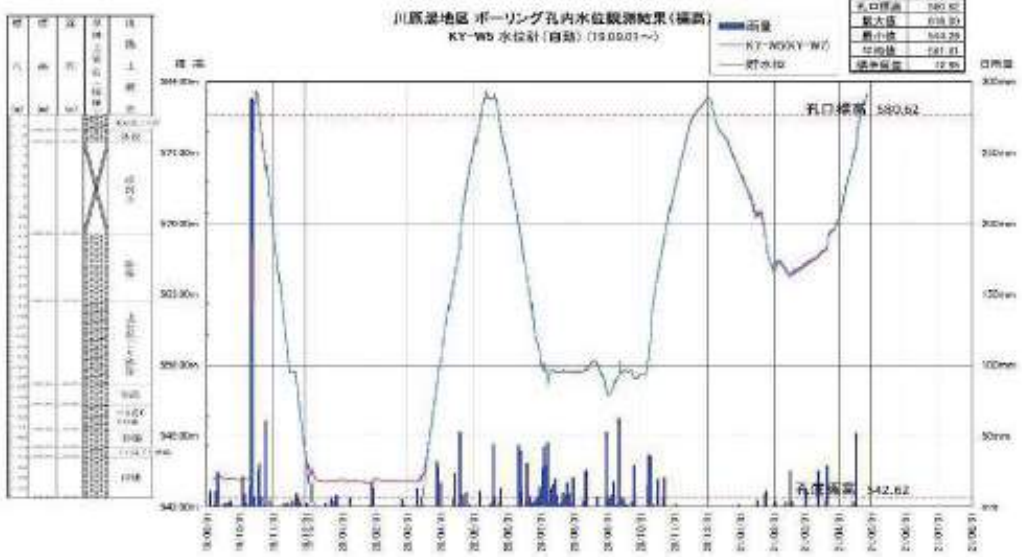


図 6.37　地下水位計 KY-W5 変動図

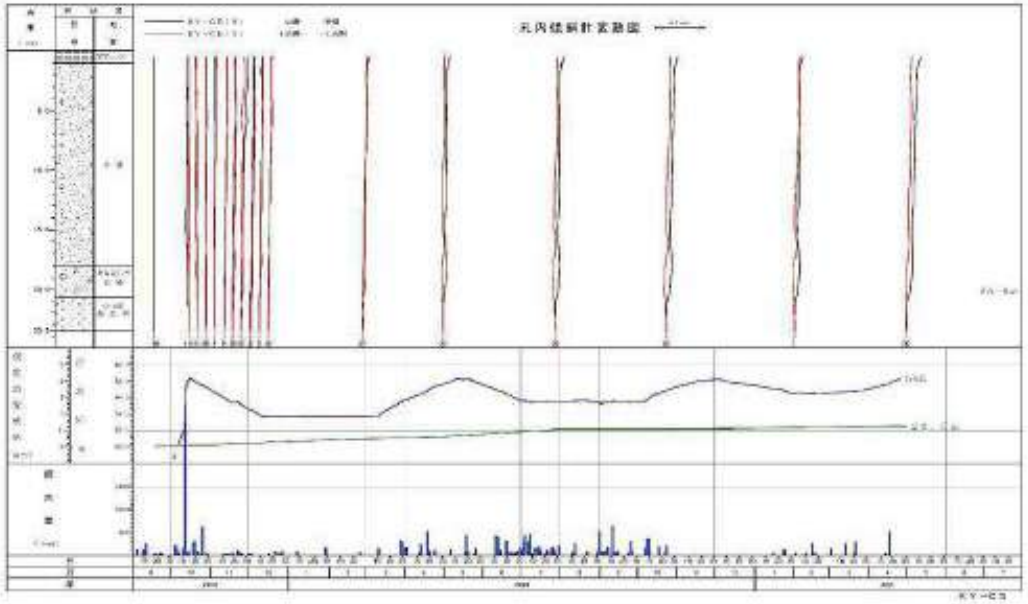


図 6.38　孔内傾斜計 KY-C5 変動図

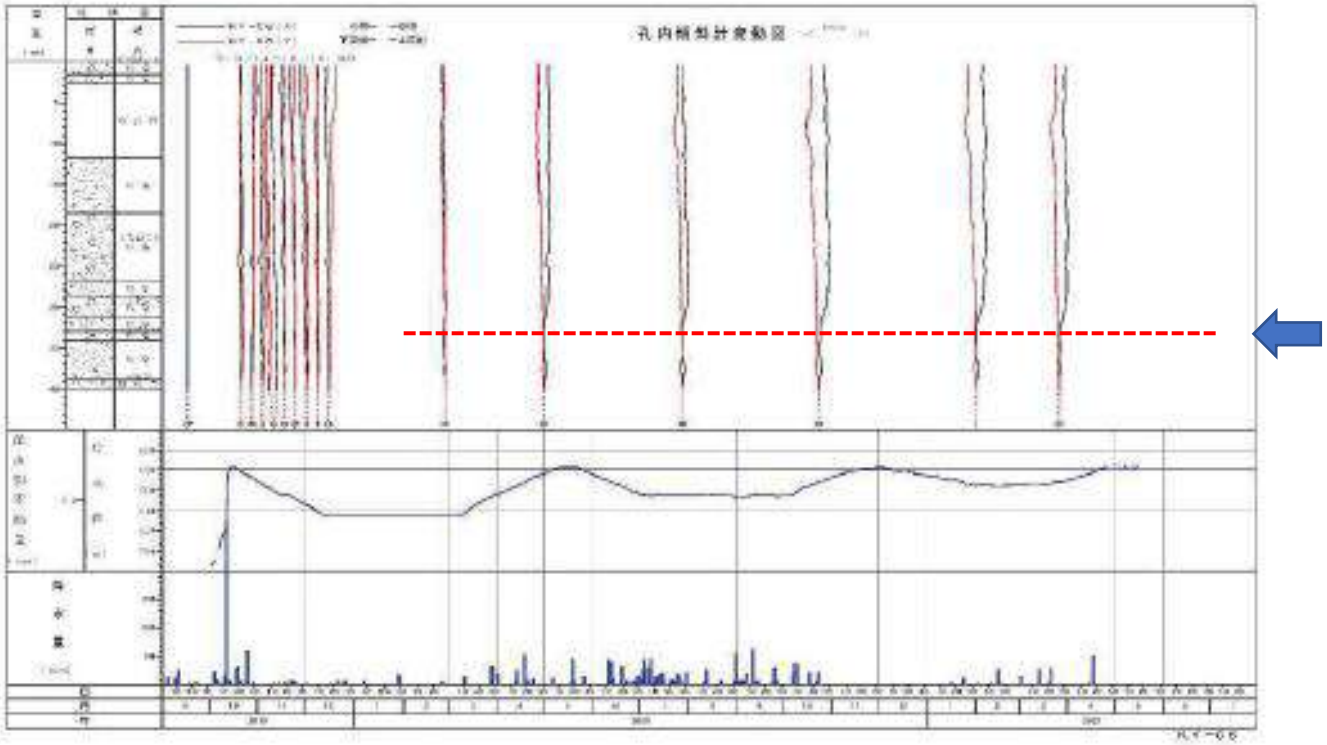


図 6.39　孔内傾斜計 KY-C6 変動図

川原湯地区３

表 6.9　観測結果一覧（川原湯地区③）

種別	地区	測線	計器種	計器番号	孔口標高(m)	観測結果 令和2年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	令和3年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	観測結果コメント
代替地	川原湯地区③	—	地下水位計	KY-M5	580.62	○	－	－	○	－	－	○	－	－	○	－	－	○	－	－	・地下水位は貯水に連動して変化し、貯水位とほぼ同標高で推移している。
			孔内傾斜計	KY-C5	600.51	○	－	－	○	－	－	○	－	－	○	－	－	○	－	－	・明瞭な変位は認められない。
				KY-C6	580.74	○	－	－	○	－	－	○	－	－	○	－	○	－	－	－	・明瞭な変位は認められない。
			変位杭	KY-T9	599.00	○	－	－	○	－	○	－	－	－	○	－	○	－	－	－	・管理基準値超過や、変位の累積は認められない。
				KY-T10	586.00	○	－	－	○	－	○	－	－	－	○	－	○	－	－	－	・測量誤差（±15mm）を超える変位が観測されたが、変位量の急激な変化や、有意な変位の累積性も認められない。 ・同地区で観測している変位杭において、保全対象に最も近い盛土法肩部測点での計測結果は管理基準値以下であり、盛土の不安定化を示す変位は認められない。
				KY-T11	583.10	○	－	－	○		○	－	－	－	○	－	○	－	－	－	・測量誤差（±15mm）を超える変位が観測されたが、変位量の急激な変化や、有意な変位の累積性も認められない。 ・同地区で観測している変位杭において、保全対象に最も近い盛土法肩部測点での計測結果は管理基準値以下であり、盛土の不安定化を示す変位は認められない。
				KY-T12	570.00	－	－	－	○	－	○	－	－	－	○	－	○	－	－	－	・測量誤差（±15mm）を超える変位が観測されたが、変位量の急激な変化や、有意な変位の累積性も認められない。 ・同地区で観測している変位杭において、保全対象に最も近い盛土法肩部測点での計測結果は管理基準値以下であり、盛土の不安定化を示す変位は認められない。
				KY-T13	555.20	－	－	－	○	－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・測量誤差（±15mm）を超える変位が観測されたが、変位量の急激な変化や、有意な変位の累積性も認められない。 ・同地区で観測している変位杭において、保全対象に最も近い盛土法肩部測点での計測結果は管理基準値以下であり、盛土の不安定化を示す変位は認められない。

〈凡例〉

地下水位計	－	：観測なし	孔内傾斜計	変動A	：10mm/月以上
	○	：異常なし		変動B	：2mm/月以上、10mm/月未満
				変動C	：0.5mm/月以上、2mm/月未満
				○	：0.5mm/月未満（変動なし）
変位杭	○	：管理基準値の超過			
	○	：測量誤差の超過			
	○	：変動なし			
	－	：観測なし			

（　）：変位量においては変動A～変動Cに該当するが、前後の変動状況から斜面の変動以外の理由によると判断される

明瞭な変位は見られない

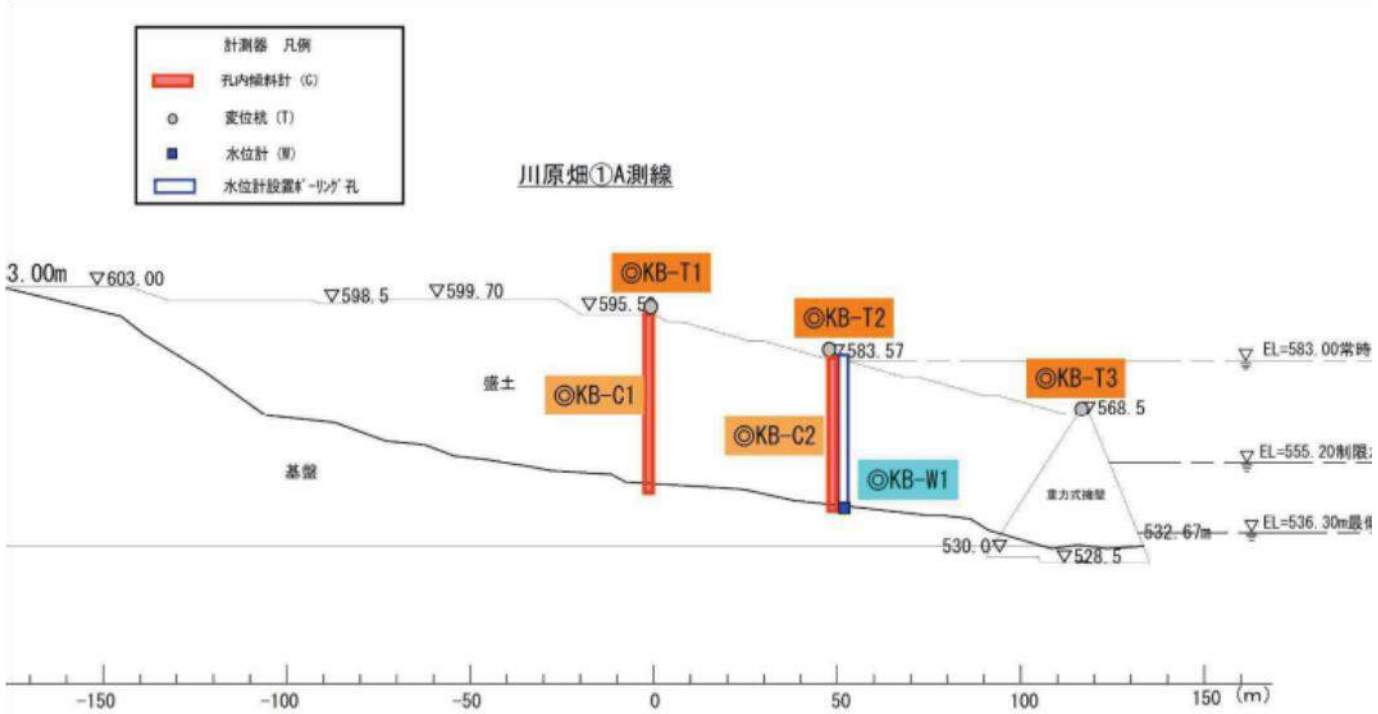
川原畑

代替地

国交省資料より

山側には、宅地が位置する。対策工として、法止め（重力式）擁壁、
八ッ場大橋切土法面へのアンカー工が実施されている。法止め擁壁
上方に法高 27m の盛土が実施されている。盛土表面の水位変動は、
27.8m、満水時は法尻から 54.5m まで上昇する。湛水時の盛土部の
監視するため観測を実施した。

図 7.6　川原畑地区①全景



川原畑

路面に亀裂、歩道と車道の舗装の間が広がっている。
国交省も変状の観測を行っている（？）。

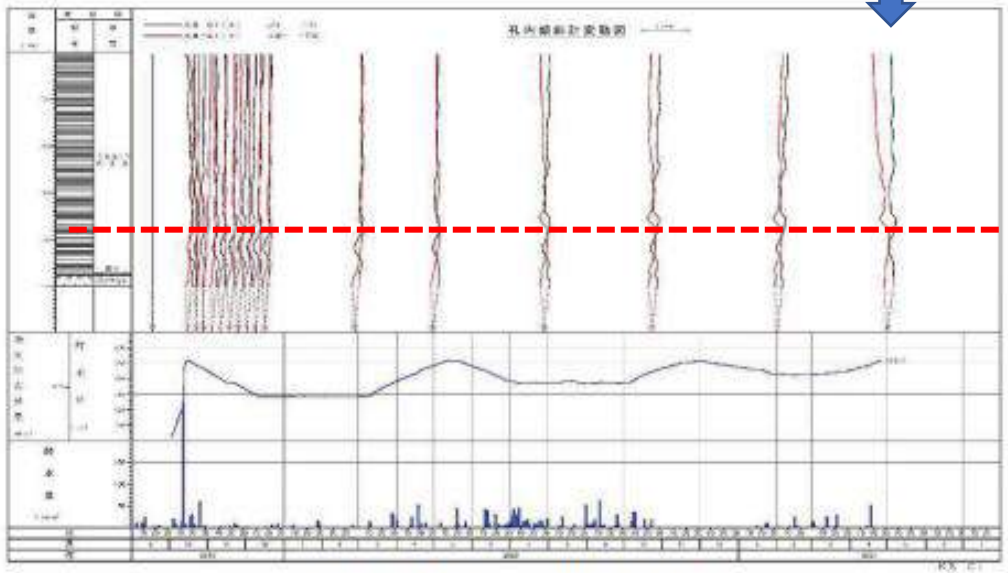


図 7.16　孔内傾斜計 KB-C1 変動図

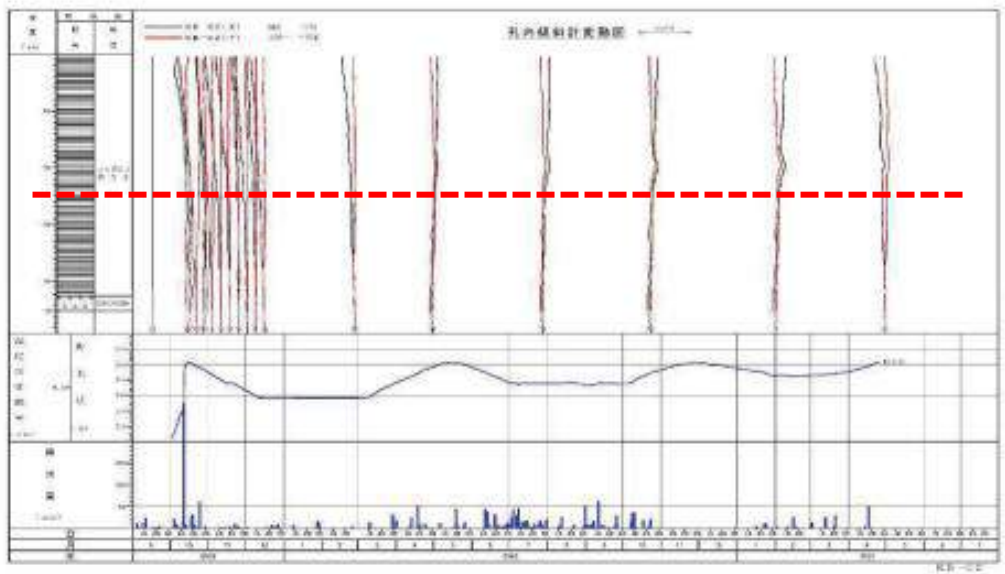


図 7.17　孔内傾斜計 KB-C2 変動図

国交省資料より

種別	地区	測線	計器種	計器番号	孔口標高(m)	観測結果コメント
盛土箇法面管理箇所	川原畑地区①	—	地下水位計	KB-W1	584.65	・地下水位は貯水に連動して変化し、貯水位とほぼ同標高で推移している。
			孔内傾斜計	KB-C1	596.45	・明瞭な変位は認められない。
				KB-C2	594.52	・明瞭な変位は認められない。
			変位杭	KB-T1	595.59	・管理基準値超過や、変位の累積は認められない。
				KB-T2	583.57	・管理基準値超過や、変位の累積は認められない。
				KB-T3	568.50	・測量誤差(±5mm)を超える変位が観測されたが、変位量の急激な変化や、有意な変位の累積性も認められない。 ・同地区で観測している変位杭において、保全対象に最も近い盛土法肩部測点での計測結果は管理基準値以下であり、盛土の不安定化を示す変位は認められない。

明瞭な変位は見られない ⟷ **道路面には明瞭な変位がある**

国交省資料より

まとめ

1　ダムサイト左岸擁壁では岩盤の風化変質が進行している。

2　ダムサイト下流の斜面岩盤に、貯水池からの漏水が生じている。

3　地すべり地
勝沼地区の西端（管理用道路）では、小規模地すべりが発生、監視が必要

4　代替地
川原畑では、路面の亀裂が進行している。監視が必要
（管理用道路、川原畑の亀裂については、報告書では触れていない）

5　国交省の報告では、地すべり地、代替地での観測結果は、管理基準値以下として、変状なしとしている。
観測値をより詳細に分析し、予兆の有無を検討する必要がある。

引き続き、国交省が進める観測報告書を入手し、地盤変状の検討と現地調査が必要
観測は長期にわたることから、後継者育成も検討しておくことが必要